

(様式第10)

北里病発第2025-21 号

令和 7 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 北里研究所
理事長 浅利 靖

北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒108-8641 東京都港区白金五丁目9番1号
氏名	学校法人 北里研究所

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

北里大学病院

3 所在の場所

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
電話(042)778-8111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
○	9感染症内科	○	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
「神経内科」→「脳神経内科」にて診療 「内分泌内科」、「代謝内科」→「糖尿病・内分泌・代謝内科」にて診療							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科	○	4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
「乳腺外科」、「内分泌外科」→「乳腺・内分泌外科」にて診療							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	糖尿病・内分泌・代謝内科	2	脳神経内科	3	乳腺・内分泌外科	4	小児心臓血管外科	5	形成外科
6	美容外科	7	頭頸部外科	8	臨床検査科	9	病理診断科	10	リハビリテーション科
11	心療内科	12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
42	0	0	0	1,083	1,125

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	695	36.3	731.3	看護補助者	147.9	診療エックス線技師	0
歯科医師	3	0.5	3.5	理学療法士	40	臨床検査技師	141.3
薬剤師	111	3.2	114.2	作業療法士	19	衛生検査技師	0
保健師	24	0	24	視能訓練士	16	その他	0
助産師	62	0	62	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1,432	9.6	1,441.6	臨床工学士	51	医療社会事業従事者	27.7
准看護師	0	0	0	栄養士	1	その他の技術員	30.5
歯科衛生士	3	0	3	歯科技工士	0	事務職員	189.9
管理栄養士	32	0	32	診療放射線技師	88	その他の職員	107.9

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	65	眼科専門医	19
外科専門医	43	耳鼻咽喉科専門医	16
精神科専門医	13	放射線科専門医	9
小児科専門医	27	脳神経外科専門医	8
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	26
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	23
産婦人科専門医	21	救急科専門医	11
		合計	300

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (山岡 邦宏) 任命年月日 令和 6 年 7 月 1 日

2018年11月より各部門における医療安全に関する管理責任者であり、現場での事故防止、安全管理に関する中心的な役割を担い、病院の医療安全活動等にリーダーシップを発揮し、率先垂範するリスクマネージャーとしての業務に従事している。また、2024年5月より、リスクマネジメント委員会の構成員(同年7月よりリスクマネジメント委員会委員長)として、業務に従事している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	884 人	0 人	884 人
1日当たり平均外来患者数	2,305.5 人	24.6 人	2,330.2 人
1日当たり平均調剤数	1,651		剤
必要医師数	226		人

必要歯科医師数	1	人
必要薬剤師数	30	人
必要(准)看護師数	520	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,125 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	70 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	212.2	m ²	病床数	20 床
	[移動式の場合]	台数	0	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	67.3	m ²		
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	228.87 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置		
細菌検査室	159.02 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	オートクレーブ、全自動同定感受性装置、安全キャビネット、孵卵器		
病理検査室	521.58 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ラミナーテーブル、切り出し台、撮影装置、顕微鏡、遠心器、遺伝子解析装置、PCR、VIP、自動染色装置、自動封入装置、包埋センター、マイクローム、クリオスタート		
病理解剖室	316.9 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	剖検台、切り出し台、ラミナーテーブル、撮影装置		
研究室	5,442.51 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動細胞解析装置、マイクローム、電子顕微鏡、超低温フリーザー、高速冷却遠心機		
講義室	2,884.63 m ²	鉄筋コンクリート	室数	38 室	収容定員	2,009 人
図書室	920.1 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	36,751 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.3	%	逆紹介率	74.1	%
算出根拠	A: 紹介患者の数			26,112	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			22,924	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			2,106	人
	D: 初診の患者の数			30,917	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センター COML 理事長	○	医療現場により良いコミュニケーションを築く 豊富な活動経験	無	医療を受ける者その他の医療 従事者以外の者
矢野 真	武蔵野赤十字病院相談 役 日本赤十字社 総合福祉センター非常 勤医師		医療安全の専門家とし ての経験	無	医療に係る安全管理に関する 識見を有する者
林 泰広	社会福祉法人 聖隷福 祉事業団 袋井市立 聖隷袋井市 民病院 院長		病院管理者としての経 験、並びに医療安全業 務の経験	無	
亀森 康子	自治医科大学附属さい たま医療センター 医療 安全・渉外対策部 副部 長		大学病院等の医療機関 における医療安全業務 の経験	無	
海野 宏行	神奈川県弁護士会所属 みなと綜合法律事務所		弁護士としての経験	無	法律に関する識見を有する者

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
法人ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	9人
アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法	1人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	2
扱い患者数の合計(人)	10人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法 切除が不可能な食道表在がん(先進医療)の導入について	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 APC装置による腫瘍焼却術は、粘膜表層のみを凝固することから、腫瘍の焼却による出血や穿孔のリスクが低く、EMR/ESDが困難な症例において適応しうる治療であり、治療の時間も20-30分と非常に短く鎮静の使用が困難な患者において、場合によっては無鎮痛での治療も可能である。			
医療技術名	リンパ液漏出に対する経皮経腹的なリンパ管塞栓術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 本手技はリンパ管からのリンパ漏による乳び胸、乳び腹水の患者に対し実施する。透視下に乳び槽をはじめとしたリンパ管に対して、経皮経腹的に直接穿刺を行いリンパ液漏出部を塞栓する。			
医療技術名	リンパ液漏出に対する経皮経肝的なリンパ管塞栓術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 タンパク漏出性胃腸症は、Fontan術後の重篤な合併症の一つである。リンパ管圧の上昇により肝臓から十二指腸内に持続的にリンパ液が漏出する病態であり、低栄養と免疫低下を来し予後不良である。近年、難治性タンパク漏出性胃腸症に対する経皮的肝内リンパ管塞栓術の有効性が報告されている。			
医療技術名	動脈管開存症に対する経カテーテル的閉鎖栓システムの導入	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 本邦でも2009年よりカテーテル治療を行うことができるようになった。成人期の動脈管開存症は外科的に閉鎖するには外科的結紮術は困難で、人工心肺を用いたり、循環停止が必要となるため侵襲度が高く、カテーテルで閉鎖することは有効である。			
医療技術名	経皮的肺動脈弁システムの導入について	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 本治療は、過去に経カテーテル的もしくは外科的に右室流出路への介入を行った患者において重度の肺動脈弁逆流を有し手術適応となる場合に施行される。現在、先天疾患として生まれ修復術を実施した患者は増えて続けているが、成績が良好になるにつれ成人となる者も増えてきている。			
医療技術名	上部胃癌に対するグレリン分泌域を温存した胃亜全摘術(腹腔鏡下及びロボット支援下)について	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 グレリンは胃から分泌されるペプチドホルモンで、成長ホルモン分泌刺激作用を有し、摂食亢進作用、胃分泌刺激作用、筋萎縮に対する保護作用等がある。グレリン分泌細胞は胃上部の穹窿部に多く分布しており、通常胃全摘時には胃上部の穹窿部は切除してしまうが、グレリン分泌細胞を温存する亜全摘術を実施することで、術後の食事摂取量低下や体重減少によるQOL低下を防ぐことが期待され、術後の補助化学療法の実施率にも優れた影響を及ぼすと考えられる。			
医療技術名	糖尿病を伴う病的肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術+十二指腸空腸バイパス術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 糖尿病を伴う重症肥満症の患者に対しての外科的治療法として、保険収載されているスリーブ状胃切除術に併せて十二指腸空腸バイパス術を行うことが効果的である。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下胆道拡張手術の導入について	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 胆道拡張症は、膵臓と胆管の合流異常の場合に起こることが多く、本術式では拡張した胆管と胆嚢を切除する。胆汁の流れが離断されるため、腸管を切除し胆管と腸の再建が必要となる。本術式の目的としては、癌の予防と分流することによる膵炎と胆管炎の予防があげられる。			
医療技術名	ロボット支援下心腫瘍摘出術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 胸骨正中切開によるアプローチ以外の方法として、これまでは肋骨からの小切開アプローチによりカメラポートを入れ、術野の確保を行っていたが、ロボット支援下で行うことにより3D内視鏡による視認性の向上と、			

ロボットアームによる心内操作の向上が実現される。			
医療技術名	JETATREAM Atherectomy Systemの使用について	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 JETSTREAMは浅大腿動脈および膝窩動脈におけるアテローム性動脈硬化性病変に 対する切削、吸引、または血栓の破碎、吸引により、手術成功の向上を意図した アテレクトミーデバイスである。 高度石灰化病変を有する大腿動脈および膝窩動 脈の血管内治療は、残存狭窄やバルーン拡張後の重篤な解離が生じやすく、治療 が難渋となるケースが多々あり容易ではない。しかし、JETSTREAMの使用によっ て石灰化病変の減量やそれに伴うバルーン拡張後の解離の低減が可能となり、血管開存性の改善が期待できる。			
医療技術名	ダヴィンチを使用したロボット支援下拡大胸腺全摘術の導入	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 既に保険収載されている、重症筋無力症に対するダヴィンチを使用したロボット支援下拡大胸腺全摘術である。			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する壁側・臓側胸膜全切除術(横隔膜、心膜合併切除を伴う場合あり)の実施について	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 悪性胸膜皮腫に対し、肺を残して、腫瘍と壁側胸膜および臓側胸膜(状況によっては横隔神経も)を切除し、横隔膜、心膜は浸潤があれば合併切除を行い、人工物を用いて再建を行う術式である。			
医療技術名	重度痙縮に対するバクロフェン髄注療法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 痙縮を緩和するバクロフェンの入ったポンプを腹部へ埋め込み、カテーテルを通じて脊髄周辺(髄腔)に薬剤を直接投与することで筋緊張を緩和する。内服薬にもバクロフェンはあるが、脊髄に直接投与するため投与量が少なくてすみ、眠気などの副作用が出にくいというメリットもある。			
医療技術名	切除不能な局所進行又は局所再発の頭頸部癌に対するイルミノックス治療の導入	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 切除不能な局所進行又は局所再発の頭頸部癌に対して、がん細胞に特別に結合する色素を含む薬剤を用いてレーザー光照射を行う治療である。			
医療技術名	EXIT(ex-utero intrapartum treatment)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 EXITは母体全身麻酔下で開腹し、露出した子宮を切開し上半身のみ術野(子宮外)に引き出した胎児に対し、臍帯血流を維持した状態で気道確保などを行う治療である。			
医療技術名	死戦期帝王切開の実施	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 母体心肺停止時に救命を目的として大動静脈の圧迫を解除するために施行する手術である。			
医療技術名	脊髄性筋委縮症に対するゾルゲンスマ(遺伝子治療用ベクター製品)による治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 ゾルゲンスマは、指定難病の一つである「脊髄性筋委縮症」の治療薬である。 薬価は1億6707万7222円(収載時)である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	17
取扱い患者数の合計(人)	14

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	15	56	原発性免疫不全症候群	5
2	筋萎縮性側索硬化症	49	57	IgA腎症	85
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	多発性嚢胞腎(常染色体優性多発性嚢胞腎)	40
4	進行性核上性麻痺	20	59	黄色靱帯骨化症	20
5	パーキンソン病	309	60	後縦靱帯骨化症	101
6	大脳皮質基底核変性症	10	61	広範脊柱管狭窄症	8
7	ハンチントン病	4	62	特発性大腿骨頭壊死症	83
8	シャルコー・マリー・トゥース病	5	63	下垂体性ADH分泌異常症(中枢性尿崩症)	35
9	重症筋無力症	280	64	下垂体性ADH分泌異常症(バソプレシン分泌過剰症)	1
10	多発性硬化症／視神経脊髄炎	212	65	下垂体性TSH分泌亢進症	1
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	30	66	下垂体性PRL分泌亢進症	5
12	封入体筋炎	6	67	クッシング病	9
13	クロウ・深瀬症候群	1	68	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	30
14	多系統萎縮症	35	69	下垂体前葉機能低下症	11
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く)	94	70	下垂体前葉機能低下症(ゴナドトロピン分泌低下症)	16
16	ライソゾーム病(ゴーシェ病)	1	71	下垂体前葉機能低下症(副腎皮質刺激ホルモン(AGTH)分泌低下症)	40
17	ライソゾーム病(ポンペ病)	2	72	下垂体前葉機能低下症(甲状腺刺激ホルモン(TSH)分泌低下症)	6
18	ライソゾーム病(ファブリー病)	12	73	下垂体前葉機能低下症(GH 分泌不全性低身長症(小児))	3
19	ミトコンドリア病	15	74	下垂体前葉機能低下症(成人GH分泌不全症)	105
20	もやもや病	46	75	下垂体前葉機能低下症(プロラクチン(PRL)分泌低下症)	1
21	プリオン病	3	76	甲状腺ホルモン不応症	1
22	全身性アミロイドーシス	52	77	先天性副腎皮質酵素欠損症(先天性リポイド過形成症)	1
23	全身性アミロイドーシス(全身性野生型トランスサイレチン(ATTRwt)アミロイドーシス／老人性全身性アミロイドーシス)	1	78	先天性副腎皮質酵素欠損症(21-水酸化酵素欠損症)	6
24	ウルリッヒ病	1	79	先天性副腎皮質酵素欠損症(17 α -水酸化酵素欠損症)	1
25	遠位型ミオパチー	3	80	先天性副腎低形成症	3
26	神経線維腫症-I型	13	81	アジソン病	2
27	神経線維腫症-II型	3	82	サルコイドーシス	102
28	天疱瘡	36	83	特発性間質性肺炎	68
29	表皮水疱症	4	84	肺動脈性肺高血圧症	44
30	膿疱性乾癬(汎発型)	3	85	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
31	高安動脈炎	45	86	慢性血栓性肺高血圧症	51
32	巨細胞性動脈炎	28	87	リンパ管筋腫症	3
33	結節性多発動脈炎	19	88	網膜色素変性症	26
34	顕微鏡的多発血管炎	95	89	バッド・キアリ症候群	4
35	多発血管炎性肉芽腫症	30	90	特発性門脈圧亢進症	8
36	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	56	91	原発性胆汁性胆管炎	35
37	悪性関節リウマチ	28	92	原発性硬化性胆管炎	13
38	バージャー病	5	93	自己免疫性肝炎	30
39	原発性抗リン脂質抗体症候群	6	94	クローン病	367
40	全身性エリテマトーデス	628	95	潰瘍性大腸炎	450
41	皮膚筋炎／多発性筋炎	230	96	好酸球性消化管疾患(小児－成人)	3
42	全身性強皮症	177	97	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
43	混合性結合組織病	80	98	若年性特発性関節炎(全身型若年性特発性関節炎)	3
44	シェーグレン症候群	81	99	若年性特発性関節炎(関節型若年性特発性関節炎)	9
45	成人発症スチル病	39	100	TNF受容体関連周期性症候群	1
46	再発性多発軟骨炎	8	101	非典型溶血性尿毒症症候群	1
47	ペーチェット病	136	102	先天性ミオパチー	3
48	特発性拡張型心筋症	123	103	筋ジストロフィー	22
49	肥大型心筋症	23	104	脊髄空洞症	3
50	拘束型心筋症	2	105	脊髄髄膜瘤	1
51	再生不良性貧血	49	106	脳表ヘモジデリン沈着症	1
52	自己免疫性溶血性貧血	6	107	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1
53	発作性夜間ヘモグロビン尿症	7	108	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
54	特発性血小板減少性紫斑病	71	109	中隔視神経形成異常症／ドモルシア症候群	1
55	血栓性血小板減少性紫斑病	2	110	限局性皮質異形成	1

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	大田原症候群	1	152	慢性再発性多発性骨髄炎	1
112	早期ミオクロニー脳症	1	153	強直性脊椎炎	31
113	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	154	骨形成不全症	1
114	結節性硬化症	5	155	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
115	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	43	156	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
116	特発性後天性全身性無汗症	3	157	後天性赤芽球癆	2
117	マルファン症候群	6	158	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	6
118	ウィリアムズ症候群	1	159	クロンカイト・カナダ症候群	3
119	歌舞伎症候群	1	160	総排泄腔遺残	1
120	多脾症候群	1	161	胆道閉鎖症	2
121	ウェルナー症候群	2	162	IgG4関連疾患(IgG4関連疾患包括)	18
122	プラダー・ウィリ症候群	1	163	IgG4関連疾患(自己免疫性膵炎)	8
123	ヌーナン症候群	1	164	IgG4関連疾患(IgG4関連硬化性胆管炎)	1
124	アンジェルマン症候群	1	165	IgG4関連疾患(IgG4関連涙腺・眼窩および唾液腺病変)	4
125	エマヌエル症候群	1	166	IgG4関連疾患(IgG4関連腎臓病)	1
126	総動脈幹遺残症	2	167	黄斑ジストロフィー	2
127	修正大血管転位症	2	168	レーベル遺伝性視神経症	3
128	完全大血管転位症	8	169	若年発症型両側性感音難聴	1
129	単心室症	8	170	好酸球性副鼻腔炎	48
130	左心低形成症候群	1	171	カルニチン回路異常症	1
131	三尖弁閉鎖症	4	172	遺伝性自己炎症疾患(エカルディ・グティエール症候群)	1
132	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	5	173	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
133	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	174	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症(先天性声門下狭窄症)	1
134	ファロー四徴症	19	175	特発性多中心性キャッスルマン病	19
135	両大血管右室起始症	9	176	ネフロン癆	2
136	エプスタイン病	2			
137	急速進行性糸球体腎炎	5			
138	一次性ネフローゼ症候群	84			
139	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	4			
140	紫斑病性腎炎	8			
141	先天性腎性尿崩症	1			
142	オスラー病	5			
143	副甲状腺機能低下症	4			
144	偽性副甲状腺機能低下症	3			
145	ビタミンD抵抗性くる病／骨軟化症(くる病)	1			
146	ビタミンD抵抗性くる病／骨軟化症(骨軟化症)	1			
147	フェニルケトン尿症	1			
148	メチルマロン酸血症	1			
149	尿素サイクル異常症	1			
150	脂肪萎縮症	1			
151	家族性地中海熱	16			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	176
合計患者数(人)	5,543

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 情報通信機器を用いた診療	・ 患者サポート体制充実加算
・ 医療DX推進体制整備加算	・ 重症患者初期支援充実加算
・ 歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・ 歯科外来診療医療安全対策加算1	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 歯科外来診療感染対策加算1	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 特定機能病院入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料	・ 精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
・ 救急医療管理加算	・ バイオ後続品使用体制加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 病棟薬剤業務実施加算1・2
・ 診療録管理体制加算2	・ データ提出加算2のイ
・ 医師事務作業補助体制加算1(20対1)	・ 入退院支援加算1・3
・ 急性期看護補助体制加算(25対1)	・ 精神科入退院支援加算
・ 看護職員夜間配置加算(12対1加算1)	・ 認知症ケア加算
・ 看護配置加算	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 看護補助加算2	・ 精神疾患診療体制加算
・ 療養環境加算	・ 精神科急性期医師配置加算1
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 排尿自立支援加算
・ 無菌治療室管理加算1・2	・ 地域医療体制確保加算
・ 緩和ケア診療加算	・ 救命救急入院料1・4
・ 精神科応急入院施設管理加算	・ 特定集中治療室管理料1
・ 精神病棟入院時医学管理加算	・ 特定集中治療室管理料3
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料1
・ 依存症入院医療管理加算	・ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・ 摂食障害入院医療管理加算	・ 新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料
・ 栄養サポートチーム加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児)(新生児)
・ 医療安全対策加算1	・ 小児入院医療管理料1
・ 感染対策向上加算1	・ 精神科救急急性期医療入院料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ ウィルス疾患指導料	・ がん治療連携計画策定料
・ 外来栄養食事指導料の注2	・ 外来排尿自立指導料
・ 外来栄養食事指導料の注3	・ 肝炎インターフェロン治療計画料
・ 遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・ 薬剤管理指導料
・ 糖尿病合併症管理料	・ 医療機器安全管理料1・2
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 歯科治療時医療管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料の注2 難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・ 救急搬送診療料の注4 重症患者搬送加算
・ がん患者指導管理料 イ・ロ・ハ・ニ	・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物 居住者訪問看護・指導料の注2
・ 外来緩和ケア管理料	・ 遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸 療法指導管理料)
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指 導管理料
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポン プと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと 連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・ 腎代替療法指導管理料	・ 遺伝学的検査
・ 一般不妊治療管理料	・ 骨髓微小残存病変量測定
・ 生殖補助医療管理料1	・ 染色体検査の注2に規定する基準
・ 二次性骨折予防継続管理料1・3	・ BRCA1/2遺伝子検査
・ 下肢創傷処置管理料	・ がんゲノムプロファイリング検査
・ 慢性腎臓病透析予防指導管理料	・ 先天性代謝異常症検査
・ 外来放射線照射診療料	・ 抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・ 外来腫瘍化学療法診療料1	・ 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗H LA抗体(抗体特異性同定検査)
・ 外来腫瘍化学療法診療料の注8 連携充実加算	・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易 ジェノタイプ判定)
・ 外来腫瘍化学療法診療料の注9 がん薬物療法体制充実加算	・ ウィルス・細菌核酸多項目同時検出 (SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
・ 療養・就労両立支援指導料(相談支援加 算)	・ ウィルス・細菌核酸多項目同時検出 (髄液)
・ ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・ 検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 国際標準検査管理加算	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 血流予備量比コンピューター断層撮影
・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ 外傷全身CT加算
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 心臓MRI撮影加算
・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ 乳房MRI撮影加算
・ 胎児心エコー法	・ 小児鎮静下MRI撮影加算
・ ヘッドアップティルト試験	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ 皮下連続式グルコース測定	・ 外来化学療法加算1
・ 長期継続頭蓋内脳波検査	・ 無菌製剤処理料
・ 脳波検査判断料1	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 神経学的検査	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 補聴器適合検査	・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 全視野精密網膜電図	・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ ロービジョン検査判断料	・ 難病患者リハビリテーション料
・ 小児食物アレルギー負荷検査	・ がん患者リハビリテーション料
・ 内服・点滴誘発試験	・ リンパ浮腫複合的治療料
・ センチネルリンパ節生検(片側)	・ 集団コミュニケーション療法料
・ 経頸静脈的肝生検	・ 歯科口腔リハビリテーション料2
・ 前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・ 児童思春期精神科専門管理加算
・ 経気管支凍結生検法	・ 療養生活継続支援加算
・ 画像診断管理加算1・2	・ 精神科作業療法
・ ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・ ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・ 医療保護入院等診療料
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・ 静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・ 多血小板血漿処置
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 硬膜外自家血注入

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ エタノールの局所注入 (甲状腺に対するもの)	・ 緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・ エタノールの局所注入 (副甲状腺に対するもの)	・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・ 人工腎臓・慢性維持透析を行った場合1	・ 網膜再建術
・ 導入期加算3	・ 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・ 透析液水質確保加算	・ 植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ 血漿交換療法(難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法)	・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・ 血漿交換療法(移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法)	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ ストーマ合併症加算	・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・ 磁気による膀胱等刺激法	・ 上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療以外の診療に係るものに限る)
・ CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・ 皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・ 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・ 皮膚移植術(死体)	・ 頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・ 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る)	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。))	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 椎間板内酵素注入療法	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 緊急穿頭血腫除去術	・ 胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・ 頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・ 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・ 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に限る))	・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・ 羊膜移植術	・ 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術及び胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・ 経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)
・ 緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・ 経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 経皮的僧帽弁クリップ術	・ 腹腔鏡下胃全摘術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・ 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術	・ 腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・ 胸腔鏡下心房中隔欠損閉鎖術	・ バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・ 不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)に限る。)	・ 腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテルの手術によるもの)に限る。)	・ 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・ 経皮的中心心筋焼灼術	・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・ 腹腔鏡下肝切除術
・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカーの場合)	・ 腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・ 腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・ 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・ 腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・ 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP 法)	・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・ 腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 補助人工心臓	・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 小児補助人工心臓	・ 腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・ 同種死体腎移植術
・ 経皮的下肢動脈形成術	・ 生体腎移植術
・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・ 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・ 尿道狭窄グラフト再建術
・ 腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・ 精巣温存手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・ 画像誘導放射線治療加算 (IGRT)
・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 定位放射線治療
・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・ 画像誘導密封小線源治療加算
・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 保険医療機関間の連携による病理診断
・ 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	・ 病理診断管理加算2
・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術	・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
・ 胎児輸血術及び臍帯穿刺	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 体外式膜型人工肺管理料	・ 歯科矯正診断料
・ 医科点数表第2章第10 部手術の通則の16 に規定する手術(胃瘻増設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。))	・ 看護職員処遇改善評価料67
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・ 外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る。)	・ 歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・ 輸血管理料Ⅰ	・ 入院ベースアップ評価料96
・ 貯血式自己血輸血管理体制加算	
・ 自己生体組織接着剤作成術	
・ 自己クリオプレシビテート作製術(用手法)及び同種クリオプレシビテート作製術	
・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・ レーザー機器加算	
・ 麻酔管理料(Ⅰ)・(Ⅱ)	
・ 放射線治療専任加算	
・ 外来放射線治療加算	
・ 高エネルギー放射線治療	
・ 1回線量増加加算	
・ 強度変調放射線治療 (IMRT)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。	
	2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病院CPC2回/年、定例CPC7回、外科病理カンファレンス7回/年、婦人科カンファレンス3回/年、呼吸器外科カンファレンス9回/年、エキスパートパネル毎週	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	26
	剖検率(%)	3.3

(注) 1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。

(注) 2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自己免疫疾患に関する調査研究	山岡 邦宏(分担)	リウマチ膠原病・感染内科	200,000	補 委	厚生労働省
自然免疫細胞に発現するMS4A4Aの自己免疫疾患病態との関連と臨床応用	山岡 邦宏	リウマチ膠原病・感染内科	2,340,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
転写因子IRF5に注目した全身性エリテマトーデスの新しい病態解明	山岡 邦宏(分担)	リウマチ膠原病・感染内科	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
全ゲノム解析と患者疫学情報による病原体伝播経路推定法の確立とその臨床応用	藤倉 雄二	リウマチ膠原病・感染内科	200,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
心血管疾患患者の重症化予防を目指した身体機能と疾病管理に関する包括的研究	荻谷 英紀	リハビリテーション部	390,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
大動脈疾患患者における予後を予測する身体機能の指標の開発	澁谷 真香	リハビリテーション部	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
腫瘍循環器疾患患者に対する早期リハビリテーションの安全性および有効性の解明	野崎 康平	リハビリテーション部	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
虚弱な高齢心不全患者の身体機能を改善する効果的な個別運動プログラムの開発	濱寄 伸明(分担)	リハビリテーション部	260,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
整形外科感染症に対する原因菌種迅速同定と菌数をバイオマーカーとする新規感染医療	内山 勝文	医療安全推進室	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
壊死性腸炎の早期診断・病勢評価法確立に向けて	小西 健一郎	一般・小児・肝胆膵外科	2,000,000	補 委	公益財団法人 武田科学振興財団
多様な卓越したシーズ探索・研究開発を支援する産学官民の協創による拠点形成	小西 健一郎	一般・小児・肝胆膵外科	174,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)

脂肪肝修復を制御する活性化NKT細胞の役割解明	西澤 伸恭	一般・小児・肝胆膵外科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
胎便プロテオーム解析を用いた新生児消化管疾患に対する新たな治療戦略創出への挑戦	渡辺 栄一郎	一般・小児・肝胆膵外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
腸内細菌トランスオミクス解析を用いた小児疾患のトランスレーショナルリサーチ	渡辺 栄一郎 (分担)	一般・小児・肝胆膵外科	352,105	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
CDO1プロモーター領域のメチル化異常は直腸癌局所再発のバイオマーカーとなるか？	小畠 慶太	下部消化管外科	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
大腸癌における癌間質マーカーコラーゲン8の発現制御と癌転移分子機序解明	内藤 剛	下部消化管外科	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
遊離型血清濃度および関連組織濃度に基づく周術期予防抗菌薬の投与設計	高山 陽子	感染管理室	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
医療環境と病院排水における薬剤耐性菌の実態把握と耐性遺伝子伝播要因の解明	高山 陽子(分担)	感染管理室	650,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
がん患者を親にもつ子どもへの医療者及び教員と連携したグリーフ支援モデルの開発	高見 紀子(分担)	看護部	39,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
ICUにおける終末期の看取りの質向上を目指してー日本語版FS-ICUの開発ー	高橋 恵	看護部	975,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
がん相談支援の質の確保及び持続可能な体制の構築に資する研究	近藤 まゆみ (分担)	看護部	100,000	補 委	厚生労働省
がん患者を親にもつ子どもへの医療者及び教員と連携したグリーフ支援モデルの開発	児玉 美由紀 (分担)	看護部	39,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
セキュリティを担保したリアルタイム映像伝送システムの研究開発	服部 潤	救命救急・災害医療センター	23,566,626	補 委	消防庁
重症ARDS患者を救う経自立神経的肺保護デバイス: NEURO-ECMOの開発における基礎検証	丸橋 孝昭	救命救急・災害医療センター	1,131,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
地域医療構想を踏まえた救急医療体制の充実に関する研究	丸橋 孝昭(分担)	救命救急・災害医療センター	200,000	補 委	厚生労働省

REBOAに伴う虚血関連合併症に対する迷走神経刺激の効果と臨床応用に向けた基盤研究	大井 真里奈	救命救急・災害医療センター	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
重症ICU患者の筋肉量に注目した予後の解明と消費エネルギー予測式の導出	田村 智	救命救急・災害医療センター	260,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
骨由来間葉系細胞由来エクソソームの骨形成に至るメカニズムの解明	杉本 佳香	形成外科・美容外科	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
特発性造血障害に関する調査研究	鈴木 隆浩(分担)	血液内科	500,000	補 委	厚生労働省
小球状構造を有する微小乳頭型肺腺癌における幹細胞性と悪性度の関連	佐藤 之俊	呼吸器外科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
非小細胞肺癌PDXモデルを用いた治療後微小残存病変の生存メカニズムの解明	三窪 将史	呼吸器外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
エラスターゼ誘導性肺気腫モデルにおける骨髄由来VEGFR1陽性細胞の役割	松井 啓夫	呼吸器外科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
各種肺がんの分化プログラムにおけるマスター制御因子の役割	佐藤 崇	呼吸器内科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
小細胞肺癌のフェノタイプ解析による免疫療法の治療効果予測因子の解明	白澤 昌之(分担)	呼吸器内科	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
肺神経内分泌腫瘍におけるMYCファミリー癌遺伝子に関連したバイオマーカー探索	猶木 克彦	呼吸器内科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
加齢性聴覚障害の”聴き取りづらさ”に対する蝸牛シナプス再生療法による革新的治療法開発	栗岡 隆臣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,000,000	補 委	公益財団法人 鈴木謙三記念医科学応用研究財団
聴神経回路の神経脱髄とシナプス障害が耳鳴に及ぼす影響についての基礎研究	栗岡 隆臣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,952,558	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
CD109は頭頸部癌のバイオマーカーおよび治療標的として有用か？	山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
きこえの変化と脳の変容:聴覚を起点とした全脳ネットワークの統合的解明	藤岡 正人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
多層臨床データの情報数理解析と幹細胞医学・発生工学の融合による加齢性聴覚障害	藤岡 正人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	21,840,000	補	独立行政法人 日本学術振興会

研究題目による加担研究の概要		科		委	関係機関 (JSPS)
マイクロニードル型高分子薬液送達システムの開発	藤岡 正人(分担)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
色素性乾皮症A群の新規治療薬の探索	藤岡 正人(分担)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	5,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
新型インフルエンザ感染症に対するPoint of Care Testing型免疫動向把握・予測ツールに関する研究開発	藤岡 正人(分担)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
蝸牛シナプス再生剤の開発-聴き取りづらさの新規治療:ROCK阻害剤の展開-	藤岡 正人(分担)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,640,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
REV7は頭頸部癌の新たな予後因子となるか?	榎山 香保	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
理学療法士修士課程大学院生に対する集中治療理学療法教育プログラムの開発とその検証	小池 朋孝	集中治療センターRST・RRT室	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
心筋炎から心筋症への移行を阻止する全く新しい特発性拡張型心筋症の治療法開発に向けた病態解明と治療標的の同定	阿古 潤哉(分担)	循環器内科	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
成人先天性心疾患に罹患した成人の社会参加に係る支援体制の充実に資する研究	小板橋 俊美	循環器内科	2,299,000	補 委	厚生労働省
輸血医療の安全性向上のためのデータ構築研究	大谷 慎一(分担)	輸血部	200,000	補 委	厚生労働省
最先端の医療研究開発を支える研究倫理コンサルテーションの高度化と体制構築に向けた取組	渡邊 達也(分担)	倫理審査室	2,210,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
倫理委員会における規制対象外研究の適切な審査に関する研究	渡邊 達也(分担)	倫理審査室	390,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
GLP-1分泌細胞の分化成熟機構解明に向けた時空間解析	正木 嗣人	臨床検査部	2,730,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
薬剤耐性菌発生の防止を目的としたMRSAの分子疫学的	中村 正樹	臨床検査部	2,080,000	補	独立行政法人 日本学

解析			2,000,000	委	術振興会 (JSPS)
RSウイルス感染症サーベイランスシステムの整備・流行動態解明および病態形成・重症化因子の解明に関する開発研究	伊藤 尚志(分担)	小児科	1,950,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
1時間尿素窒素クレアチニンクリアランス法の新生児、小児急性腎傷害への有用性の検討	奥田 雄介	小児科	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
C3腎症の診断・治療アルゴリズム策定に資するエビデンス構築	奥田 雄介(分担)	小児科	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
小児腎領域の希少・難治性疾患群の全国診療・研究体制の構築	石倉 健司	小児科	17,088,160	補 委	厚生労働省
小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群早期再発例の長期寛解導入を目指したリツキシマブ療法開発研究	石倉 健司(分担)	小児科	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
小児ネフローゼ症候群における抗ネフリン抗体研究	石倉 健司(分担)	小児科	649,998	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築	石倉 健司(分担)	小児科	500,000	補 委	厚生労働省
段階的胎生臓器補完による網羅的慢性腎不全の抜本的治療法の開発	石倉 健司(分担)	小児科	7,800,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
難治性聴覚障害に関する調査研究	石倉 健司(分担)	小児科	300,000	補 委	厚生労働省
社会状況等を踏まえた、適切な妊産婦健康診査の検討に資する研究	中西 秀彦(分担)	小児科	200,000	補 委	こども家庭庁
新生児慢性肺疾患の患者と家族のQOL向上を目指す包括的研究	中西 秀彦(分担)	小児科	300,000	補 委	厚生労働省
International translational research for clinical applications of novel	平田 陽一郎	小児科	300,000	補	独立行政法人 日本学

applications of novel biodegradable ASD occluder device using large animals	(分担)	消化器内科	550,000	委	術振興会 (JSPS)
新規口腔細菌による肝性脳症の増悪メカニズムの解明	魚嶋 晴紀	消化器内科	2,210,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
胃がんの一次および二次予防の現状把握とヘリコバクター・ピロリ未感染時代に対応した新たな胃がん検診の提案に向けた研究	草野 央(分担)	消化器内科	600,000	補 委	厚生労働省
アルコール性肝障害に伴う血小板減少に関する抗血小板抗体の病因的意義の解明	日高 央	消化器内科	988,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
大腸癌転移進展機序における癌微小環境の機序解明と治療標的の同定	山下 継史	上部消化管外科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
スキラス胃癌新規治療戦略を目指した癌遺伝子の同定と機能解析	比企 直樹	上部消化管外科	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
cT1-4aN0-3胃癌におけるロボット支援下胃切除術の腹腔鏡下胃切除術に対する優越性を検証するランダム化比較試験	比企 直樹(分担)	上部消化管外科	130,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
川崎病血管炎による冠動脈の早期動脈硬化リスクの解明とスタチンの治療効果の検証	泉二 佑輔	心臓血管外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
糖脂質GM3による蛋白尿治療薬の創出へ向けた標的検証	川島 永子	腎臓内科	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
腎のPTP- ζ 発現が腎疾患の進展と全身症状に与える影響	和田 幸寛	腎臓内科	260,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
天然化合物を基盤とした新規変形性関節症疼痛治療シーズの創出	井上 玄	整形外科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)

椎間板性腰痛における VSTM4の役割の解明と VSTM4ペプチド断片による治 療シーズの創出	横関 雄司	整形外科	1,430,000	補 委	独立行政法 人 日本学 術振興会 (JSPS)
椎間板組織への神経伸長に 関与するマクロファージサブ セットの同定	宮城 正行	整形外科	1,820,000	補 委	独立行政法 人 日本学 術振興会 (JSPS)
膝蓋下脂肪体由来軸索伸長 因子を介した新規変形性関 節症疼痛機構の解明	迎 学	整形外科	1,430,000	補 委	独立行政法 人 日本学 術振興会 (JSPS)
シュワン細胞由来細胞外小 胞の局所送達による新規腱 板断裂後疼痛治療シーズの 創出	見目 智紀	整形外科	1,430,000	補 委	独立行政法 人 日本学 術振興会 (JSPS)
MAIT細胞に着眼した変形性 関節症病態の性差の解明	高相 晶士	整形外科	1,560,000	補 委	独立行政法 人 日本学 術振興会 (JSPS)
筋ジストロフィーに伴う脊柱側 弯症治療 発展のためのエビデンス構築	高相 晶士(分担)	整形外科	800,000	補 委	国立精神・ 神経医療研 究センター 精神・神経 疾患研究開 発費
β 2-ミクログロブリンを介した 滑膜下結合組織線維化機構 の解明と治療シーズの探索	小沼 賢治	整形外科	1,950,000	補 委	独立行政法 人 日本学 術振興会 (JSPS)
機能性混合間葉系幹細胞ス フェロイド移植による新規骨 欠損治療法の確立	庄司 真太郎	整形外科	1,690,000	補 委	独立行政法 人 日本学 術振興会 (JSPS)
Peptide LvによるOA疼痛制 御機構の解明と疼痛治療 シーズの創出	相川 淳	整形外科	800,000	補 委	独立行政法 人 日本学 術振興会 (JSPS)
滑膜平滑筋様細胞を介した 変形性関節症疼痛機序の解 明	大橋 慶久	整形外科	1,430,000	補 委	独立行政法 人 日本学 術振興会 (JSPS)
細菌性コラゲナーゼのドメイ ン協働機構解明とその分子 基盤に基づく組織新生因子 の創出	内田 健太郎 (分担)	整形外科	325,000	補 委	独立行政法 人 日本学 術振興会 (JSPS)
中枢感作、疼痛に関与する CD163陽性サブセットの同定 とその機能解析	福島 健介	整形外科	1,560,000	補 委	独立行政法 人 日本学 術振興会 (JSPS)

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	高相 晶士(分担)	整形外科	250,000	補 委	厚生労働省
精神科領域のガイドラインの社会実装化に関する検証研究	稲田 健(分担)	精神神経科	390,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
医療と福祉の連携を基盤とした知的障害で認知症の人の支援モデルと研修制度の構築	大石 智(分担)	精神神経科	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
周産期における膵内分泌細胞新生機構の解明	星山 綾子	総合診療部	650,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
安置所等における衛生基準の確立に向けた実証研究	武藤 剛	総合診療部	4,599,000	補 委	厚生労働省
令和2年度の医師臨床研修制度の見直しの影響の評価のための研究	武藤 剛(分担)	総合診療部	50,000	補 委	厚生労働省
2型糖尿病の病態解明に向けた膵β細胞不全のheterogeneityの解析	井上 光子	糖尿病・内分泌代謝内科	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
高効率かつ低侵襲なβ細胞新生誘導法の開発	宮塚 健	糖尿病・内分泌代謝内科	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
膵内分泌組織のシナプス小胞様顆粒の動態と微細構造の解明	高橋 倫子	糖尿病・内分泌代謝内科	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
栄養組成の変化が膵α細胞の恒常性に与える影響に関する研究	市川 雷師	糖尿病・内分泌代謝内科	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
血漿中に存在するβ細胞特異的ペプチドの網羅的探索－β細胞破壊の定量化に向けて－	田口 朋	糖尿病・内分泌代謝内科	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
甲状腺癌におけるHOPXメチル化のLiquid biopsyとしての臨床応用	加藤 弘	乳腺・甲状腺外科	260,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
TN乳癌におけるCDO1メチル化の意義と癌抑制機序の解明	三階 貴史	乳腺・甲状腺外科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
HER2陽性乳癌に対する手術省略を目指した医療機器の開発研究	三階 貴史(分担)	乳腺・甲状腺外科	260,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)

ステロイドマウスウォッシュによる乳癌化学療法誘因性の口腔粘膜炎予防を検討する第Ⅲ相ランダム化比較試験	三階 貴史(分担)	乳腺・甲状腺外科	52,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	隈部 俊宏	脳神経外科	8,970,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
びまん性内在性橋グリオーマ(DIPG)のレジストリ構築および緩和ケアの実態解明を目的とした多施設共同前方視的観察研究	隈部 俊宏(分担)	脳神経外科	260,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
遺伝子解析では診断困難な小児脳腫瘍に対するDNAメチル化解析に基づく統合診断法の確立に関する研究開発	隈部 俊宏(分担)	脳神経外科	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
可及的摘出されたIDH変異型星細胞腫に対する標準治療を確立する研究	隈部 俊宏(分担)	脳神経外科	325,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
高齢者初発膠芽腫に対するテモゾロミド併用寡分割放射線治療の最適化に関する研究	隈部 俊宏(分担)	脳神経外科	800,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
初発中枢神経原発胚細胞腫瘍に対する化学療法併用放射線治療の低侵襲化に関する研究開発	隈部 俊宏(分担)	脳神経外科	260,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
小児上衣腫に対する手術摘出度と分子学的マーカーを用いた治療層別化による集学的治療の安全性と有効性確立に向けた研究開発	隈部 俊宏(分担)	脳神経外科	260,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
髄芽腫、非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍、上衣腫に対する標準治療開発を目的とした多施設共同研究	隈部 俊宏(分担)	脳神経外科	130,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
稀少臨床検体に注目した膠芽腫播種病態解明のためのマルチオミックス解析	柴原 一陽	脳神経外科	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)

マルチオミクスデータと数理モデル・深層学習を用いた膠芽腫に対する時間的・空間的な不均一性の解明と治療標的の同定	柴原 一陽(分担)	脳神経外科	1,950,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
造影病変全切除可能な初発膠芽腫に対する標準的手術法確立に関する研究	柴原 一陽(分担)	脳神経外科	1,560,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
衝撃波を応用した膠芽腫の革新的診断法と治療法の構築	秀 拓一郎	脳神経外科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
Needle-free microfluidic vaccine/drug delivery	秀 拓一郎(分担)	脳神経外科	52,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
グリオーマ根治を実現する放射線駆動型ポリマーマルチターゲット薬の開発	秀 拓一郎(分担)	脳神経外科	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
独自のプロテオミクス手法を用いた膀胱癌関連蛋白質の検出とその臨床応用	松本 和将	泌尿器科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
毛包幹細胞を用いた神経系の再生医療	小原 宏哉	皮膚科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
自己毛包幹細胞含有バイオマテリアルを用いたパーキンソン病と心不全の再生医療	天羽 康之	皮膚科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
子宮内膜癌のPTEN過剰発現と核内β-カテニン集積による転位分化促進機構の解明	横井 愛香	病院病理部	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
入浴中の急死と温熱による熱中症との関連性について	佐藤 文子	病院病理部	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
ALK関連子宮内膜癌の同定、その生物学的特性の解明、そして新規治療戦略への展開	三枝 信	病院病理部	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
胸腺腫発症ラットの原因遺伝子変異導入マウスを用いたヒトB型胸腺腫の病態解明	村雲 芳樹(分担)	病院病理部	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
Nucleobindin2による子宮がん肉腫の発がんダイナミクス解析	板木 昌孝	病院病理部	1,820,000	補	独立行政法人 日本学

内服薬ががん治療への臨床応用			1,020,000	委	術振興会 (JSPS)
新規DNA二本鎖切断修復関連タンパク質によるPARP阻害剤抵抗性メカニズムの解明	櫻井 靖高	病院病理部	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
乳癌の術前薬物療法の有効性を予測する新規バイオマーカーの探索	眞山 到	病院病理部	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	加藤 一喜(分担)	婦人科	2,084,190	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
子宮内膜症を制御する腹腔マクロファージVEGFR1受容体シグナルの役割解明	本田 雅子	婦人科	2,080,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
前立腺癌の高精度放射線治療技術別の至適治療開発と適応拡大に関する基盤研究	石山 博條(分担)	放射線治療科	65,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
Arf6小胞輸送経路を介した末梢神経から中枢神経における疼痛感作の制御機構	伊藤 諭子	麻酔科	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)
RAMP1シグナルを介したARDS制御機構の解明	松田 弘美	麻酔科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会 (JSPS)

計131件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Okuwaki K, Watanabe M, Yoshida T 他	消化器内科	Efficacy of endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition using stereo- microscopic on-site evaluation for possible comprehensive genome profile in patients with advanced pancreatic cancer.	J Gastroenterol Hepatol.2024 Apr;39(4)740-745.	Original Article
2	Ishibashi Y, Itoh T, Oguri Y 他	消化器内科	Nucleobindin 2 inhibits senescence in gastric carcinoma.	Sci Rep.2024 May;14(1)11261.	Original Article
3	Horii T, Ikehara H, Arata S 他	消化器内科	Efficacy of cricoid pressure application during esophagogastroduode noscopy in patients with poor gastric wall extension	Digestion.2024 May;105(4)291-298	Original Article
4	Iwasaki S, Uojima H, Sakita S 他	消化器内科	Esophageal Varices as an Independent Predictor of Fatal Outcomes after Balloon-Occluded Retrograde Transvenous Obliteration in Patients with Hepatic Encephalopathy.	Dig Dis.2024 Jun;42(6)583-592.	Original Article
5	Kusano C, Gotoda T, Ishikawa H 他	消化器内科	Gastric Cancer Detection Rates using Gastrointestinal Endoscopy with Serological Risk Stratification: A Randomized Controlled Trial	Gastrointest Endosc.2024 Jul;100(1)55-63.	Original Article

6	Watanabe M, Okuwaki K, Iwai T 他	消化器内科	Endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition using Fork-tip needle for subepithelial lesions: A single- center validation study	Digestive Diseases and Sciences.2024 Jul;69(7)2567-2572.	Original Article
7	Uojima H, Yamasaki K, Sugiyama M.	消化器内科	Quantitative measurements of M2BPGi depend on liver fibrosis and inflammation	J Gastroenterol.2024 Jul;59(7)598-608.	Original Article
8	Furue Y, Yoda Y, Hori K 他	消化器内科	Outcomes of repeated endoscopic submucosal dissection for superficial Esophageal squamous cell carcinoma on endoscopic resection scar.	Dis Esophagus.2024 Jul;37(7)1-8.	Original Article
9	Iwai T, Kida M, Okuwaki K 他	消化器内科	Deep Learning Analysis for Differential Diagnosis and Risk Classification of Gastrointestinal Tumors	Scand J Gastroenterol.2024 Aug;59(8)925-932.	Original Article
10	Hanaoka T, Okuwaki K, Nakamura K 他	消化器内科	High likelihood of BRCA2 reversion mutation in pancreatic cancer post-platinum-based chemotherapy: a case study.	Int Cancer Conf J. 2024 Aug;134()493-498.	Original Article
11	Kanazawa J, Ikehara H, Horie T 他	消化器内科	Effect of spray COAG mode on hemostasis in colorectal endoscopic submucosal dissection using inverse probability of treatment weight analysis.	DEN Open. 2024 Sep;5(1)e70008.	Original Article
12	Uojima H, Tsujioka H, Yamazaki K 他	消化器内科	Hepatic Mac2-BP expression depends on liver fibrosis and inflammation due to fat accumulation in patients with metabolic dysfunction associated steatotic liver disease.	Hepatol Res.2024 Sep;55(2)181-190.	Original Article

13	Ishizaki J, Okuwaki K, Watanabe M 他	消化器内科	Effectiveness of endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition with stereomicroscopic on-site evaluation for preoperative diagnosis of resectable or borderline resectable pancreatic cancer: a prospective study	Clin Endosc.2024 Nov;57(6)807-813.	Original Article
14	Kubota Y, Sudo R, Ishido K 他	消化器内科	Hemostasis using a novel self-assembling peptide for a bleeding gastric hyperplastic polyp after endoscopic resection.	Endoscopy.2024 Dec;56(S 01)E851-E852	Case report
15	Watanabe M, Okuwaki K, Iwai T 他	消化器内科	Use of the intrascope channel stent release technique using a novel pigtail-type plastic stent.	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01)E947-E948	Case report
16	Harada Y, Ikeda S, Kawabe Y 他	消化器内科	S100A4 contributes to colorectal carcinoma aggressive behavior and to chemoradiotherapy resistance in locally advanced rectal carcinoma.	Sci Rep.2024 Dec;14(1)31338.	Original Article
17	Hidaka H, Kamata H, Uojima H 他	消化器内科	A case of immune checkpoint inhibitor-associated hemophagocytosis after initiation of atezolizumab plus bevacizumab therapy for advanced hepatocellular carcinoma.	Clin J Gastroenterol. 2024 Dec;17(6)1075-1079	Case report
18	Ishido K, Tanabe S, Kitahara G 他	消化器内科	Feasibility of non-anesthesiologist-administered sedation with dexmedetomidine and midazolam during endoscopic submucosal dissection of upper gastrointestinal tumors.	DEN Open.2024 Dec;5(1)e70045.	Original Article

19	Iwai T, Kida M, Sugimori K 他	消化器内科	Safety and Efficacy of a 6-Month Placement of a Fully Covered Self-Expanding Metallic Stent for Refractory Benign Biliary Stricture: A Multicenter Prospective Study	JGH Open. 2025 Jan;9(1)e70103.	Original Article
20	Nomura N, Také A, Uojima H 他	消化器内科	Complete match of Streptococcus salivarius from oral saliva and stool in a patient with hepatic encephalopathy	Intern Med.2025 Feb;64(4)551-556.	Case report
21	Hanaoka T, Okuwaki K, Nishizawa N 他	消化器内科	A case of needle tract seeding of pancreatic adenosquamous carcinoma after a single endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition.	Clin J Gastroenterol. 2025 Feb;18(1)234-241.	Case report
22	Horii T, Harada Y, Kitahara G 他	消化器内科	Comparison of the resection depth between endoscopic mucosal resection and underwater endoscopic mucosal resection for superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors: A retrospective study.	DEN Open.2025 Mar;5(1)e70091.	Original Article
23	Asakura K, Minami Y, Nagata T 他	循環器内科	Higher triglyceride levels are associated with the higher prevalence of layered plaques in non-culprit coronary plaques	J Thromb Thrombolysis. 2024;57(1):58-66.	Original Article
24	Ishizue N, Fukaya H, Oikawa J 他	循環器内科	Prognostic impact of oral anticoagulation therapy and atrial fibrillation in patients with type B acute aortic dissection	J Arrhythm, 2024; 7; 40(2):297-305.	Original Article
25	Eda Y, Nabeta T, Iikura S 他	循環器内科	Non-dilated left ventricular cardiomyopathy vs. dilated cardiomyopathy: clinical background and outcomes	ESC Heart Fail; 11(3):1463-1471	Original Article

26	Takeuchi K, Sato K, Kuno H 他	腎臓内科	A case of lupus nephritis with masked polyclonal IgG presenting as severe AKI, successfully treated and withdrawn from hemodialysis: a case report.	CEN Case Rep. 2025 Mar 28. Online ahead of print.	Case report
27	Takeuchi K, Kawamura S, Wada Y 他	腎臓内科	Renal Impairment of Proximal Tubular Injury Caused by Red Yeast Rice Supplement: Report of 2 Cases.	Case Rep Nephrol Dial. 2024 Jul 25;14(1):128- 137.	Case report
28	Abe T, Wada Y, Takeuchi K 他	腎臓内科	Focal Light Chain Proximal Tubulopathy Complicated by Monoclonal Gammopathy of Undetermined Significance/Smolderi ng Multiple Myeloma Successfully Diagnosed by Immunofluorescence on Pronase-Digested Paraffin Section: Reports of Two Cases and Review of the Literature	Tohoku J Exp Med. 2024;264(1):53-60.	Case report
29	Takahashi H, WadaY, Yamazaki T 他	腎臓内科	Parvovirus B19- related membranoproliferativ e glomerulonephritis presenting with positive glomerular staining for nephritis- associated plasmin receptor: a case report and review of the literature	CEN Case Rep . 2024 Dec 15. doi: 10.1007/s13730-024- 00956-1.	Case report
30	Horigome Y, Iino M, Harazaki Y, Kobayashi T 他	血液内科	A prospective, multicenter, observational study of ixazomib plus lenalidomide- dexamethasone in patients with relapsed/refractory multiple myeloma in Japan.	Ann Hematol. 2024;103(2):475-488. doi: 10.1007/s00277-023- 05428-7.	Original Article

31	Horigome Y, Suzuki K, Suzuki T.	血液内科	Daratumumab Treatment for “Truly Frail” Elderly Myeloma Patients.	Life (Basel). 2024 Mar 15;14(3):389. doi: 10.3390/life14030389.	Review
32	Iizuka M, Nagata N, Kanazawa N 他	脳神経内科	H-intensity scale score to estimate CSF GluN1 antibody titers with one-time immunostaining using a commercial assay	Frontiers in immunology. 2024 Apr 30;15:1350837.	Original Article
33	Kitamura E, Kanazawa N, Iizuka T 他	脳神経内科	Elevation in body temperature may increase susceptibility to cortical spreading depression in a rat model	Neuroscience research. 2024 Sep:206:30–34.	Original Article
34	Ino K, Arinuma Y, Yamaoka K 他	リウマチ膠原病・感染内科	A Case of IgG4– Related Disease Complicated with Intestinal Perforation.	Mod Rheumatol Case Rep. 2024 Jul 8;8(2):323–328.	Case report
35	Yamaoka K,Masato N, Hirano T 他	リウマチ膠原病・感染内科	Risk factors associated with major adverse cardiovascular events and malignancies in patients with rheumatoid arthritis in a real-world setting in Japan.	Int J Rheum Dis . 2024 Dec;27(12):e15448.	Original Article
36	Hasegawa Y., Arinuma Y., Yamaoka K 他	リウマチ膠原病・感染内科	Real-world efficacy of belimumab in achieving remission or low-disease activity in systemic lupus erythematosus: A retrospective study.	Mod Rheumatol . 2024 Jul 6;34(4):732– 740.	Original Article
37	Yamamoto H, Shirasawa M, Naoki K.	呼吸器内科	Analysis of lung cancer incidence, mortality trends, and smoking rates in Japan:1975–2022 with insights on the impact of COVID–19.	Int J Clin Oncol. 2025 Feb;30(2):199–209.	Review
38	Naoki K, Igawa S, Uojima H 他	呼吸器内科	Cardiovascular safety of pimipib in patients with advanced solid tumors: An open– label, nonrandomized, phase 1 study.	Cancer. 2024 Nov 1;130(21):3745–3756.	Original Article

39	Kitasato L, Yamaoka-Tojo M, Suzuki M 他	総合診療部	Fibroblasts activation by embryonic signal switching: A novel mechanism of placental growth factor-induced cardiac remodeling	Placenta. 154(2024):129-136	Original Article
40	Inada K, Muraoka H, Matsumoto Y 他	精神神経科	Comparison of Efficacies of a Blonanserin Transdermal Patch and Blonanserin Oral Formulation for Psychiatric Symptoms in Patients With Schizophrenia Treated With Laxatives Using a Japanese Claims Database	Neuropsychopharmacol Rep. 2025 Feb 21;45(1)	Original Article
41	Saito Y, Sumida K, Muraoka H 他	精神神経科	Impact of psychotropic pro re nata prescription-monitoring programme on prescriptions for inpatients with psychiatric disorders: a retrospective observational study	BMC Psychiatry. 2025 Jan 17;25(1):46.	Original Article
42	Obara K, Amoh Y.	皮膚科	A case of AA amyloidosis complicated by proliferating pilomatricoma and a review of the literature	J Dermatol 2024 Oct;51(10):1360-1363	Review
43	Haruki A, Obara K, Takaoka N 他	皮膚科	Hair-follicle associated pluripotent (HAP)-cell-sheet implantation enhanced wound healing in diabetic db/db mice	PLoS One 2024 Jun, 14 •19(6) •e0304676 (オンライン)	Original Article
44	Tajima H, Nishizawa N, Igarashi K 他	一般・小児・肝胆膵外科	Safety and efficacy of robot-assisted anastomosis in minimally invasive pancreaticoduodenectomy: A retrospective single-institute analysis.	The Kitasato Medical Journal,54(2): 87-93	Original Article

45	Kojo K, Yamanashi T, Homma S 他	下部消化管外科	Impact of Endoscopic Surgical Skill Qualification System-certified surgeons as operators in laparoscopic rectal cancer surgery in Japan: A propensity score-matched analysis (subanalysis of the EnSSURE study).	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Jul 9;8(6):1046-1055.	Original Article
46	Kitamura T, Fukuzumi M, Mishima T 他	心臓血管外科	Watch-and-wait strategy for selected patients with type A intramural hematoma.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Apr;72(4):225-231.	Original Article
47	Motoji Y, Fukazawa R, Matsui R 他	心臓血管外科	Statin suppresses the development of excessive intimal proliferation in a Kawasaki disease mouse model.	Physiol Rep. 2024 Oct;12(20):e70096.	Original Article
48	Kanai A, Ara M, Saito R 他	新世紀医療開発センター	Subcutaneous injection of lidocaine around ischemic ankle provides safe and effective foot analgesia in patients with critical limb ischemia	Vascular 2025 Feb;33(1):73-79.	Original Article
49	Ogura K, Hamazaki N, Kamiya K 他	リハビリテーション部	A comprehensive assessment tool of acute-phase rehabilitation is associated with clinical outcomes in patients after cardiovascular surgery	Heart Vessels. 2025 Mar;40(3):258-266.	Original Article
50	Tamura Y, Kitamura T, Hanawa H 他	心臓血管外科	Chopstick Stab in the Right Ventricle.	Circ Rep. 2024 May 25;6(6):232-233.	Case report
51	Shikata F, Miyaji K.	心臓血管外科	The use of Inspiris Resilia valves in the pulmonary position for repaired congenital heart defects.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Jun;167(6):e170-e171.	Case report
52	Tamura Y, Kitamura T, Torii S 他	心臓血管外科	Permanent Pacemaker Implantation for Sick Sinus Syndrome After Maze Procedure.	Kyobu Geka. 2024 Sep;77(9):649-653.	Case report

53	Toyoda M, Shibahara I, Shigeeda R 他	脳神経外科	Clinical and molecular features of patients with IDH1 wild-type primary glioblastoma presenting unexpected short- term survival after gross total resection	J Neurooncol. 2024 Aug;169(1):39–50	Original Article
54	Shibahara I, Handa H, Kiga T他	脳神経外科	Occipital Lobectomy Utilizing Parieto- Occipital Fissure: Two-Dimensional Operative Video	World Neurosurg. 2025 Jan;193:145–146	Case report
55	Toyoda M, Shibahara I, Kumabe T.	脳神経外科	Trans-Sylvian and Transanterior Ascending Ramus Approach for Insular Gliomas at Zone I: 2- Dimensional Operative Video	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2024 Nov 1;27(5):666–667	Case report
56	Shibahara I, Nakashima T, Toyoda M 他	脳神経外科	Evolving driver mutations in adult- onset SHH- medulloblastoma originated from radiological cerebellar abnormality	J Neuropathol Exp Neurol. 2024 Sep 1;83(9):791–794	Letter
57	Shibahara I, Shigeeda R, Watanabe T 他	脳神経外科	Radiological, clinical, and molecular analyses reveal distinct subtypes of butterfly glioblastomas affecting the prognosis	Neurooncol Adv. 2024 Oct 23;6(1):vdae180	Original Article
58	Shigeeda R, Hide T, Shibahara I.	脳神経外科	4K Indocyanine Green Endoscope Contributes to Preserve Normal Pituitary Functions Through Visualization of Normal Pituitary Body With Indocyanine Green Signals in the Operation for Rathke Cleft Cyst: 2- Dimensional Operative Video	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2024 Oct 16, Online ahead of print.	Case report

59	Yamamoto D, Shibahara I, Hyakutake Y.	脳神経外科	Complete removal of a cavernous malformation in the dorsal pons, in contact with the expanded transpontine vein: illustrative case	J Neurosurg Case Lessons. 2024 Aug 19;8(8):CASE24314	Case report
60	Shimizu S, Koizumi H, Shibahara I.	脳神経外科	Excessive Heat Generation by Power-Driven Craniotomy Tools: A Possible Cause of Autologous Bone Flap Resorption Observed in an Ex Vivo Simulation	World Neurosurg. 2024 Jul;187:e914-e919	Original Article
61	Shibahara I, Handa H, Kiga T.	脳神経外科	Occipital Lobectomy Utilizing Parieto-Occipital Fissure: Two-Dimensional Operative Video	World Neurosurg. 2025 Jan;193:145-146	Case report
62	Tsukada A, Uekusa Y, Ohta E 他	整形外科	Association Between Synovial NTN4 Expression and Pain Scores, and Its Effects on Fibroblasts and Sensory Neurons in End-Stage Knee Osteoarthritis. Cells.	2025 Mar 8;14(6):395. doi: 10.3390/cells14060395.	Original Article
63	Saito H, Fukushima K, Uchida K 他	整形外科	Importance of hospital food intake for early discharge after total hip arthroplasty for osteoarthritis: a propensity score matching analysis.	J Orthop Surg Res. 2025 Mar 1;20(1):225. doi: 10.1186/s13018-025-05549-x.	Original Article
64	Miyagi M, Inoue G, Takaso M.	整形外科	New Insights Into Risk Factors for Proximal Junctional Failure in Adult Spinal Deformity Surgery – A Commentary on “Proximal Junctional Failure Development Despite Achieving Ideal Sagittal Correction According to Age-Adjusted Alignment Target in Patients With Adult Spinal Deformity: Risk Factor Analysis of 196 Cases Undergoing Low Thoracic to Pelvic Fusion”. Neurospine.	2024 Dec;21(4):1091-1093. doi: 10.14245/ns.2449350.675 . Epub 2024 Dec 31.	Others

65	Uekusa Y, Mukai M, Tsukada A, Iwase D 他	整形外科	Elevated Netrin-4 Expression and Its Action in Infrapatellar Fat Pad.	Int J Mol Sci. 2024 Oct 22;25(21):11369. doi: 10.3390/ijms252111369.	Original Article
66	Metoki Y, Iwase D, Ota R 他	整形外科	Correction of lower limb deformity in an adult patient with Ellis-van Creveld syndrome: a rare case report.	J Surg Case Rep. 2024 Oct 11;2024(10):rjae648. doi: 10.1093/jscr/rjae648.	Case report
67	Ohashi Y, Fukushima K, Tsuchiya M 他	整形外科	Influence of broach surface design of a fully hydroxyapatite coated, double tapered stem on periprosthetic bone mineral density after total hip arthroplasty: a study based on the morphology of the proximal femur.	Arch Orthop Trauma Surg. 2024 Aug;144(8):3739-3748. doi: 10.1007/s00402-024-05430-2. Epub 2024 Jul 11.	Original Article
68	Iwase D, Metoki Y, Aikawa J 他	整形外科	Using femoral condyle allogeneous structural bone graft for an extensive bone defect in revision total knee arthroplasty: A report of three cases.	J Orthop Sci. 2024 Jul;29(4):1149-1153. doi: 10.1016/j.jos.2023.08.024 . Epub 2024 May 28.	Case report
69	Shibata N, Ohashi Y, Tsukada A 他	整形外科	IL24 Expression in Synovial Myofibroblasts: Implications for Female Osteoarthritis Pain through Propensity Score Matching Analysis.	Medicina (Kaunas). 2024 Apr 29;60(5):741. doi: 10.3390/medicina60050741.	Original Article
70	Matsumoto M, Kenmoku T, Tazawa R 他	整形外科	Comparison of Subacromial Bursitis on the Shoulder of the Same Individual After Superior Capsule Reconstruction Using Allograft and Rotator Cuff Tear: A Case Report.	Cureus. 2024 Apr 14;16(4):e58260. doi: 10.7759/cureus.58260.	Case report
71	Tsuchiya M, Ohashi Y, Fukushima K 他	整形外科	Fibrocyte Phenotype of ENTPD1+CD55+ Cells and Its Association with Pain in Osteoarthritic Synovium.	Int J Mol Sci. 2024 Apr 6;25(7):4085. doi: 10.3390/ijms25074085.	Original Article
72	Kimizuka S	形成外科・美容外科	Case report Bilateral chylothorax following left neck dissection and literature review	Journal of Surgical Case Reports 2024(オンライン)	Case report

73	Wato J, Takeda A, Sone Y 他	形成外科・美容外科	Cell growth and gene expression analysis of cultured fibroblasts obtained from keloid and normal skin of four individuals	The Kitasato Medical Journal. 2025 55(1) 9-15	Original Article
74	Niimi Y, Nemoto M, Takeda A.	形成外科・美容外科	Factors affecting major amputation in limb necrotizing Fasciitis.	The Kitasato Medical Journal. 2025 55(1)16-21	Original Article
75	Koguchi D, Tsumura H, Tabata K 他	泌尿器科	Real-world data on the comprehensive genetic profiling test for Japanese patients with metastatic castration-resistant prostate cancer	Japanese Journal of Clinical Oncology. 2024May;54(5):569-576	Original Article
76	Koguchi D, Tabata K, Hirano S 他	泌尿器科	Predictive Value of the Prostate-specific Antigen Doubling Time for the Effectiveness of Metastasis-directed Radiotherapy in Patients With Oligometastases After Radical Treatment for Non-metastatic Prostate Cancer	Cancer Diagn Progn 2024Sep:4(5)	Original Article
77	Mori K, Shiono Y, Shimura S 他	泌尿器科	Closure of the initial surgical wound resulting in successful treatment of a pediatric case of Fournier's gangrene: A case report	Urology Case Reports 2024Nov : 57	Case report
78	Matsuki T,Tsutsumi S,Yamashita T 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Removal of a Giant Parapharyngeal Space Oncocytoma Without Osteotomy	Ear Nose Throat J . 2024 Apr;103(4):NP203-NP206.	Original Article
79	Matsuki T,Kawakita D, Tahahashi H 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	PD-L1 expression as a predictive biomarker in patients with recurrent or metastatic salivary gland carcinoma treated with pembrolizumab	Sci Rep . 2024 Aug 27;14(1):19794. doi: 10.1038/s41598-024-70779-8.	Original Article
80	Kurioka T, Mizutari K.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Gap detection ability declines with central auditory neurodegeneration following age-related cochlear synaptopathy	Eur J Neurosci . 2024 Oct;60(8):5861-5875. doi: 10.1111/ejn.16534. Epub 2024 Sep 5.	Original Article

81	Nitta Y, Kurioka T, Mogi S 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Suppression of the TGF- β signaling exacerbates degeneration of auditory neurons in kanamycin-induced ototoxicity in mice	Sci Rep . 2024 May 13;14(1):10910. doi: 10.1038/s41598-024-61630-1.	Original Article
82	Nitta Y, Sano H, Furuki S 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Consideration of Sufficient and Insufficient Benefits in Hearing Aid Fitting	J Int Adv Otol . 2024 Nov 25;20(6):502-506. doi: 10.5152/iao.2024.241565.	Original Article
83	Hagiwara K, Matsuki T, Okada T 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Role of Hematological Markers in Recurrent/Metastatic Head and Neck Squamous Cell Carcinoma Treated With Pembrolizumab	Anticancer Res . 2024 Sep;44(9):4057-4072. doi: 10.21873/anticancer.17235.	Original Article
84	Tsukada K, Seino Y, Yamashita T.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The quality of life outcome in patients with head and neck squamous cell cancer treated using chemoradiotherapy	Auris Nasus Larynx Volume 51, Issue 4, August 2024, Pages 674-679	Original Article
85	Takahashi Y, Goseki T, Tastui S 他	眼科	A Case of Conjunctival Cyst Required Removal Six Months After Strabismus Surgery	Cureus Journal of Medical Science. 2024 Aug; 16 (8): e66433 (オンライン)	Case report
86	Takahashi Y, Kezuka T, Shikishima K 他	眼科	Usage Status of Biologics for the Chronic Treatment of Optic Neuritis in Neuromyelitis Optica Spectrum Disorders in Japan	Japanese Journal of Ophthalmology. 2025 Jan; 69(1): 81-92	Original Article
87	Kunimi K, Goseki T, Nishina S 他	眼科	2021 trends in the treatment of patients with strabismus in Japan	Japanese Journal of Ophthalmology. 2025 Jan; 69(1): 10-16	Original Article
88	Kanayama S, Ishikawa H, Mashimo K 他	眼科	Evaluating the Schlemm's canal in Prox1-green fluorescence protein mice	The Kitasato Medical Journal. 2025 Mar; 55(1): 28-36	Original Article
89	Kumanomido T, Murasugi H, Miyaji A 他	眼科	Combination of 2 test methods, single-picture optotype visual acuity chart and spot™ vision screener, in the eye health screening program for 3-year-old children in Tokyo : A retrospective, observational study	Medicine. 2024 Jun; 103(25):e38488 (オンライン)	Original Article

90	Ishida S, Nakanishi H, Sekiya R 他	小児科	On behalf of the Neonatal Research Network of Japan. Evaluation of Postnatal Complications in Clinical and Histological Chorioamnionitis in Extremely Preterm Infants: A Japanese Cohort Study.	Am J Perinatol 2024 May; 41(S 01):e2383–e2389.	Original Article
91	Ebato T, Kishi T, Akamine K 他	小児科	Evaluation of medication withdrawal in patients with non-systemic juvenile idiopathic arthritis in Japan using a web-based survey.	Mod Rheumatol.2024 Oct ;34(6):1231–1237.	Original Article
92	Honda T, Takanashi M, Kitagawa A 他	小児科	Quantitative Evaluation of Right Ventricular Workload Based on the Stroke Work Index in Patients after Right Ventricular Outflow Tract Reconstruction.	Pediatr Cardiol. Epub 2024 May 1.	Original Article
93	Ishida S, Nakanishi H, Sekiya R 他	小児科	Impact of late-onset circulatory collapse and bronchopulmonary dysplasia on short-term outcomes in preterm infants: A Japanese retrospective cohort study.	Pediatr Neonatol. 2025 Jan 22:S1875–9572(25)00021–X.	Original Article
94	Nakanishi H, Ito M, Kato S 他	小児科	Validation of a New Classification for Severe Bronchopulmonary Dysplasia in Extremely Preterm Infants: Insights from a Large Japanese Cohort.	Neonatology. 2025 Jan 27:1–11.	Original Article
95	Shinkai R, Honda T, Watanabe R 他	小児科	Fetal bradycardia as the initial symptom of mitochondrial disease: A case report.	Pediatr Int. 2024 Jan–Dec;66(1):e15771.	Case report

96	Naomiya K, Ito T, Saito A 他	小児科	Clinical Features and Characteristics of Hand, Foot, and Mouth Disease Caused by Recent Coxsackievirus A6: Five Cases in Japan from 2019 to 2022.	Infect Dis Rep. 2024 Jun 29;16(4):587–592.	Case report
97	Shirai H, Nonoda Y, Toki T 他	小児科	Successful Treatment of a Pediatric Patient with Treatment- resistant Anti-AQP4 Antibody-positive Neuromyelitis Optica by Satralizumab.	Neuro-Ophthalmology Japan, 2024.41, 231– 237	Case report
98	Yamazaki Y, Isohata H, Goto H 他	産科	Three-dimensional sonographic images of fetal hirsutism: prenatal characteristic features in cornelia de lange syndrome.J Med Ultrason.	J Med Ultrason. 2024 Apr;51(2):363–364.	Case report
99	Isohata H, Yoshida T, Sanoyama I 他	産科	Prenatal features of congenital peribronchial myofibroblastic tumor.	Radiology Case Reports. 2024 Jan 18;19(4):1463– 1467.	Case report
100	Goto H, Yamazaki Y, Isohata H 他	産科	A case of bronchopulmonary sequestration combined with congenital pulmonary airway malformation prenatally diagnosed as having two aberrant arteries originating from the celiac artery.	J Clin Ultrasound. 2024 Oct;52(8):1160–1163.	Case report
101	Yoshimura Y, Ozawa K,Goto H 他	産科	Twin Anemia- Polycythemia Sequence With Spontaneous Resolution in Dichorionic Diamniotic Twin Pregnancy: A Case Report and a Review of the Literature.	Cureus 2024 Nov 12;16(11):e73563. (オンラ イン)	Case report
102	Isohata H, Honda T, Yamazaki Y 他	産科	Prenatal aortic arch development in double aortic arch: Understanding postnatal closure of left aortic arch: A case report.	Radiology case reports. 2024 May 17;19(8):3254– 3257.	Case report

103	Kijima H, Yoshimura Y, Ishii D 他	産科	Emphysematous Pyelonephritis at 29 Weeks of Gestation: A Case Report and Review of the Literature.	Cureus. 2024 Dec 2;16(12):e74943. (オンライン)	Case report
104	Kato K.	婦人科	Modified posterior pelvic exenteration combined with ileocecal resection for locally advanced endometrial cancer.	J Gynecol Oncol 2024 Sep 2. doi: 10.3802/jgo.2025.36.e31. Online ahead of print.	Original Article
105	Osada M, Yamashita A, Akinaga S 他	救命救急・災害医療センター	VEGFR1 TK signaling protects the lungs against LPS-induced injury by suppressing the activity of alveolar macrophages and enhancing the anti-inflammatory function of monocyte-derived macrophages	Toxicol Appl Pharmacol. 2024 Nov;492:117083.	Original Article
106	Maruhashi T, Saku K, Maruki H 他	救命救急・災害医療センター	Potential new treatment for inferior vena cava injury using extracorporeal membrane oxygenation applying flow diversion effect	Trauma Surg Acute Care Open. 2024 Nov 18;9(1):e001618.	Original Article
107	Maruhashi T, Kurihara Y, Kitamura R 他	救命救急・災害医療センター	Carbon dioxide angiography during angioembolization for trauma patients increases the detection of active bleeding and leads to reliable hemostasis: a retrospective, observational study	Eur J Trauma Emerg Surg. 2024 Oct;50(5):2147-2154	Original Article
108	Oi M, Maruhashi T, Asari Y.	救命救急・災害医療センター	Efficacy of near-infrared spectroscopy in diagnosing skin and soft tissue infections: A single-center retrospective study	Acute Med Surg. 2025 Mar 13;12(1):e70041.	Original Article
109	Maruhashi T, Oi M, Hattori J 他	救命救急・災害医療センター	Distal radial approach for arterial pressure monitoring with a long catheter provides safe and stable monitoring in the intensive care unit: A single-center retrospective study	J Vasc Access. 2025 Jan;26(1):168-174.	Original Article

110	Inoue Y, Itoh H, Koizumi K 他	放射線診断科	Effects of organ dose modulation applied to a part of the scan range on radiation dose in computed tomography of the body	J Radiol Prot . 2024 Aug 22;44(3).	Original Article
111	Yamane T, Inoue Y, Asano M 他	放射線診断科	Effects of administration of iodine contrast agents on radiation dose indices in body computed tomography	Kitasato Med J 2024; 54: 94-100	Original Article
112	Inoue Y, Itoh H, Hata H 他	放射線診断科	Noise Reduction in Brain CT: A Comparative Study of Deep Learning and Hybrid Iterative Reconstruction Using Multiple Parameters	Tomography . 2024 Dec 18;10(12):2073-2086.	Original Article
113	Takayasu H, Tanaka K, Konishi K 他	小児外科	Postoperative continuation of antibiotic prophylaxis beyond 24h is unnecessary for abdominal surgeries in children and neonates.	Journal of Pediatric Surgery Open, 8: 10000179	Original Article
114	Watanabe E, Toned A, Mori T 他	小児外科	Preoperative visualization of the Adamkiewicz artery in infant neuroblastoma	Pediatr Int. 66(1):e15844.	Original Article
115	Hayashi S, Ichinoe M, Sakurai Y 他	呼吸器外科	Elevated expression of REV7 correlates with poor prognosis in lung adenocarcinoma and its inactivation in carcinoma cells enhances chemosensitivity	Pathol Res Pract. 2025 Feb;266:155779	Original Article
116	Kesen Y, Ichinoe M, Hayashi S 他	病院病理部	High levels of REV7 expression are associated with poor prognosis and chemoresistance in gastric adenocarcinoma	Pathol Int. 2025 Jan;75(1):21-33.	Original Article
117	Nozaki K, Hamazaki N, Kamiya K 他	リハビリテーション部	Association Between Amount of Physical Activity and Clinical Outcomes After Treatment for Cardiovascular Disease in Cancer Survivors.	Circ Rep. 2024 Nov; 6: 547-554	Original Article

118	Koseki S, Nozaki K, Hamazaki N 他	リハビリテーション部	Associations of cognitive decline with outcomes of cardiovascular rehabilitation in patients with cardiovascular disease	J Cardiol. 2025 May; 85: 411-417	Original Article
119	Miki T, Kamiya K, Hamazaki N 他	リハビリテーション部	Cancer history and physical function in patients with cardiovascular disease	Heart Vessels. 2024 Jul; 39: 654-663	Original Article
120	Nanri Y, Nozaki K, Maeda T 他	リハビリテーション部	Preoperative muscle weakness is a risk factor for persistent pain 1 year after hip arthroscopy for femoroacetabular impingement syndrome.	PM R. 2025 Jun; 17(6): 612-620	Original Article
121	Naeda T, Kamide N, Ando M 他	リハビリテーション部	Respiratory function is associated with cognitive function change in Japanese community-dwelling older people: A 1-year, longitudinal, observational study.	Aging Medicine and Healthcare. 2024; 15(3): 129-136.	Original Article
122	Nakai T, Amano S, Murao C 他	リハビリテーション部	Intra-and inter-rater reliability of goniometric finger range of motion using a written protocol.	Archives of physiotherapy. 2024; 14: 83-89	Original Article
123	Tomoda Y, Kobayashi M	薬剤部	An in vitro study of metformin adsorption to activated charcoal.	Clinical toxicology (Philadelphia, Pa.). 2024 Apr; 62(4): 237-241	Original Article
124	Shii T, Iguchi T, Kuroda M 他	薬剤部	Quantitative analyses of sennosides A and B in eight ethical bofutsushosan extract products	Traditional Kampo Medicine. 2024 Apr; 11: 13-21	Original Article
125	Komatsu T, Kawai Y, Takayama Y 他	薬剤部	Population pharmacokinetics and pharmacodynamic target attainment analysis of cefazolin using total and unbound serum concentration in patients with prostatectomy or nephrectomy	Antimicrob Agents Chemother. 2024 July; 68(7): doi: 10.1128/aac.00267-24	Original Article

126	Iwasawa M, Kasugai K, Sugawara M 他	薬剤部	Development and implementation of an online formulary exercise for fifth-year pharmacy students during an experiential hospital practice training	Currents in Pharmacy Teaching and Learning. 2024 Nov; 16(11): 102155	Original Article
127	Obara N, Komatsu T, Shiratsu K 他	薬剤部	Piperacillin/Tazobactam is associated with a higher risk of acute kidney injury compared to cefepime and meropenem	Journal of chemotherapy. 2025 Feb; 23: 1-6	Original Article
128	Inano H, Morimoto Y, Kitagawa K 他	薬剤部	Cost-effectiveness analysis of fosnetupitant in patients receiving cisplatin in Japan: analysis based on real-world data.	Supportive Care in Cancer. 2025 Feb; 33: 149(1-9)	Original Article
129	Izawa H, Eda R, Niida N 他	臨床検査部	Genome sequences of <i>Enterobacter asburiae</i> mcr-9 harboring and <i>Enterobacter roggenkampii</i> mcr-10 harboring isolated from a wastewater treatment plant in Japan.	Microbiol Resour Announc . 2024 Nov 12;13(11):e0040724. doi: 10.1128/mra.00407-24. Epub 2024 Sep 24.	Original Article
130	Mikubo M, Tamagawa S, Kondo Y 他	呼吸器外科	Micropapillary and solid components as high-grade patterns in IASLC grading system of lung adenocarcinoma	Clinical implications and management. Lung Cancer.2024;187: 107445	Original Article
131	Shiomi K, Ichinoe M, Ushiwata A 他	呼吸器外科	Insight into the significance of CD8+ tumor-infiltrating lymphocytes in squamous cell lung cancer.	Thorac Cancer.2024; 15: 299-306	Original Article
132	Shiomi K, Ichinoe M, Ushiwata A 他	呼吸器外科	Insight into the significance of Foxp3+tumor-infiltrating lymphocytes in squamous cell lung cancer.	Clin Transl Oncol.2024; 26(7): 1708-1715	Original Article
133	Kondo Y, Mikubo M, Ichinoe M 他	呼吸器外科	Radiologic parameters predicting the histologic invasiveness of pure ground-glass nodules.	Ann Thorac Surg Short Reports.2024; 2(3): 464-468	Original Article

134	Tamagawa S, Nakao M, Oikado K 他	呼吸器外科	Prognostic impact of ground-glass opacity components in lung cancer with lymph node metastasis.	J Thorac Dis.2024; 16(5): 2975-2982	Original Article
135	Sonoda D, Kondo Y, Maruyama R 他	呼吸器外科	Prognosis of patients with recurrent non-small cell lung cancer who received the best supportive care alone	Current Problems in Surgery.2024; 61(1): 101429	Original Article
136	Tamagawa S, Matsuura Y, Ichinose J 他	呼吸器外科	Utility of visualization and quantification of surgical techniques using motion analysis software for thoracoscopic surgery	Asian Journal of Endoscopic Surgery.2024; 17: e13343	Original Article
137	Kubo H, Sugimoto K, Wada R 他	糖尿病・内分泌代謝内科	A Case of Acromegaly With Progressed Diabetic Retinopathy and Sarcopenia Diagnosed Following the Onset of Severe Hypoglycemia	Cureus. 2024 Apr 17;16(4):e58461.	Case report
138	Suzuki A, Hayashi A, Oda S 他	糖尿病・内分泌代謝内科	Prolonged impacts of sodium glucose cotransporter-2 inhibitors on metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease in type 2 diabetes: a retrospective analysis through magnetic resonance imaging	Endocr J . 2024 Aug 8;71(8):767-775.	Original Article
139	Taguchi T, Ito S, Fujishima R 他	糖尿病・内分泌代謝内科	Hypertriglyceridemia and younger age are associated with effectiveness of growth hormone therapy on hepatic steatosis	Endocr J. 2025 Jan 72(4) 355-364	Original Article
140	Suzuki A, Moriya T, Hayashi A 他	糖尿病・内分泌代謝内科	Arteriolar Hyalinosis Predicts the Onset of Both Macroalbuminuria and Impaired Renal Function in Patients with Type 2 Diabetes	Nephron 2024 June 148(6) 390-398.	Original Article

計140件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）；巻数：該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例： Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec（オンライン）
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 研究者が、研究申請書及び実験計画書を倫理委員会事務局へ提出する。 ・ 臨床研究指針に基づき委員会にて審議ならびに判定を行う。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 22 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 産官学連携活動に関する北里大学利益相反マネジメント・ポリシーに基づき、利益相反に関する事項を審議する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 5 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 ・ 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」と「臨床研究法」の説明 ・ 具体例を用いた研究実施手法の解説 ・ 研究不正や不適合についての解説	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

北里大学病院は、1,125床の病床を有する特定機能病院であり、地域における災害拠点病院、がん診療連携拠点病院として超急性期医療に対応するべく、各医療センターを中心にチーム医療を中心とした最先端の医療を提供している。

初期臨床研修後の病棟医（卒後3～6年）については、各領域毎に日本専門医機構の指針に基づいた「専門研修プログラム」を設け、上位者よりきめ細かい指導を受ける体制と、医師としての資質向上のため診療科の枠を超えた全病院的指導体制を築いている。

当院での研修を通じて、幅広い知識と技量を有した専門医を育成し、専門領域に関する継続的な探究心を身につけることを目標とする。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	216.92 人
-------------	----------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
宮塚 健	糖尿病・内分泌・代謝内科	教授	27 年	
竹内 康雄	腎臓内科	教授	34 年	
鈴木 隆浩	血液内科	教授	30 年	
和田 達彦	感染症内科	講師	23 年	科長代理
草野 央	消化器内科	教授	24 年	
下濱 孝郎	循環器内科	講師	29 年	
猶木 克彦	呼吸器内科	教授	33 年	
西山 和利	脳神経内科	教授	36 年	
稲田 健	精神科	教授	27 年	
天羽 康之	皮膚科	教授	27 年	
浮洲 龍太郎	放射線診断科	准教授	31 年	科長代理
石山 博條	放射線治療科	教授	26 年	
比企 直樹	上部消化管外科	教授	33 年	
内藤 剛	下部消化管外科	教授	33 年	
隈元 雄介	一般・小児・肝胆膵外科	教授	33 年	
高安 肇	小児外科	准教授	33 年	
三階 貴史	乳腺・内分泌外科	教授	27 年	
三窪 将史	呼吸器外科	准教授	19 年	科長代理
宮地 鑑	心臓血管外科	教授	36 年	
隈部 俊宏	脳神経外科	教授	37 年	
井上 玄	整形外科	准教授	25 年	
石井 直弘	形成外科・美容外科	教授	26 年	
松本 和将	泌尿器科	教授	29 年	
山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	28 年	
庄司 信行	眼科	教授	35 年	
石倉 健司	小児科	教授	31 年	
落合 大吾	産科	教授	25 年	

加藤 一喜	婦人科	教授	32	年	
岡本 浩嗣	麻酔科	教授	36	年	
片岡 祐一	救急科	准教授	34	年	
狩野 有作	臨床検査科	教授	33	年	
村雲 芳樹	病理診断科	教授	36	年	
青山 直善	総合診療部	教授	36	年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
 - 1) 職員研究発表会
- ・研修の期間・実施回数
 - 2) 年1回
- ・研修の参加人数
 - 3) 30名前後

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数 未実施
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
 - 1) 緩和ケア研修会
- ・研修の期間・実施回数
 - 2) 1回につき1日間・年2回開催
- ・研修の参加人数
 - 3) 1回につき20名前後

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 山岡 邦宏
管理担当者氏名	事務部長 平本 照雄

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	診療録の管理については、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに基づき電子カルテを整備したうえ診療情報管理規程を定めて管理している。診療録の病院外への持ち出しは原則禁止している。
		各科診療日誌	人事課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療情報管理室	
		看護記録	診療情報管理室	
		検査所見記録	診療情報管理室	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	診療情報管理室	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	データベース管理または紙媒体での保管
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	研修統括部	
		閲覧実績	診療情報管理室	
		紹介患者に対する医療提供の実績	トータルサポートセンター	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	データベース管理または紙媒体での保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室	データベース管理または紙媒体での保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME 部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME 部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進室
		職員研修の実施状況	医療安全推進室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進室
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	経営戦略室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	事務部長 平本 照雄
閲覧担当者氏名	総務課長 宮ノ原 みどり
閲覧の求めに応じる場所	総務課
閲覧の手続の概要 閲覧申請を受けたら、事務部長の承認を得て、総務課内にて閲覧する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0	件
閲 覧 者 別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： 1) 安全管理に関する基本的考え方（基本理念、基本姿勢、用語の定義） 2) 安全管理のための委員会及び組織体制に関する基本的事項 3) 安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策 5) 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6) 職員と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7) 患者及び家族からの相談への対応に関する基本方針 8) その他医療安全の推進のために必要な方策	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 ・ 設置の有無（(有)・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： 1) 医療事故防止活動全般とインシデント及び医療事故発生時の対応に関すること 2) 医療事故防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること 3) 医療事故防止のための情報収集と必要部門への伝達に関すること 4) 医療安全に係る各種ワーキング及びプロジェクト活動に関すること 5) 全死亡例及び医療事故の状況の確認、並びに対策が不十分な場合の研修、指導に関すること 6) 医療事故等の原因究明のための調査・分析に関すること及び分析結果を活用した改善方策の立案・実施・周知に関すること並びに改善方策の実施状況の調査、方策の見直しに関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の内容（すべて）： 1) 医療法第6条の12の規定による研修会（医療安全、感染対策） 【2024年5月】 2) 医療法第6条の12の規定による研修会（医療安全、感染対策） 【2024年12月】	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医療機関内における事故報告等の整備（(有)・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 医療安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価の実施 2) リスクマネジメント委員会での改善具体策の検討・実施 3) 改善具体策のフィードバック（リスクマネジメントニュース・会議体での周知、マニュアルの改廃・作成等）	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
- 指針の主な内容： - 院内感染対策に関する基本指針 - 院内管理体制 - 院内感染対策のための教育・研修 - 院内感染発生状況の報告体制 - 院内感染発生時の対応 - 患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針 - 制定・改定について： - 平成19年4月1日制定。平成22年2月24日付、平成23年2月22日付、平成26年2月26日付、平成28年2月24日付、平成30年2月28日付、2020年2月26日付、2022年8月1日付、2023年2月22日付、2023年10月25日付一部改定	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
- 活動の主な内容： - 院内感染防止のための活動全般と感染症発生時の対応に関すること - 院内感染防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること - 院内感染防止のための情報収集と現部署への伝達に関すること - 院内感染管理に係る各種ワーキング等の活動に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 43 回
- 研修の内容（すべて）： - 年2回の全職員を対象とした医療安全・感染対策 - 新規採用者、復職者、中途採用者、外部業者への研修 - 全職員を対象としたASTセミナー（2024年度1回実施） - 大学病院における麻しん・風しん・流行性耳下腺炎・水痘ワクチン接種に関する今後の方針について - 針刺し損傷防止機能付きペン型インスリン注入器説明会 - 主に医師・薬剤師を対象としたASTセミナー（2023年度1回実施） - 看護師、看護補助者、介護福祉士、保育士を対象とした感染対策研修会 - 各種防護具等の着脱訓練、N95マスクフィットテスト - 手指衛生に関する研修 - その他	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
- 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無) ① 検査結果速報体制の整備 ② 感染症・食中毒発生報告体制の整備 ③ サーベイランスによる発生状況の把握およびフィードバック ④ 針刺し・粘膜曝露事象発生時の対応体制の整備 - その他の改善のための方策の主な内容： ① 「かんせん情報」の発行（2024年度6回発行） ② 院内イントラネットに掲載する「かんせん情報」、「抗菌薬感受性率一覧」、「抗菌薬使用量」、「菌検出レポート」などの情報提供 ③ 広域抗菌薬、抗MRSA薬の使用届出制 ④ AST抗菌薬適正使用ラウンド（2024年度：393症例）、重症系抗菌薬ラウンド（2024年度135回：1,159症例） ⑤ ICT環境ラウンド（2024年度48回） ⑥ 年間を通じた、感染対策、検出菌、抗菌薬に関するコンサルテーション ⑦ 耐性菌や流行感染症に対する予防・対策	

⑧ 感染対策マニュアルの整備

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9 回
・ 研修の主な内容： 1) 薬剤管理について－薬物乱用－ 開催日：2024年4月1日 場 所：IPE棟2-3階 IPEホール 参加者：新規採用コメディカル職員（全員） 講 師：薬剤部 尾鳥 勝也 2) 処方の正しい入力方法について 開催日：2024年4月10日 場 所：本館3階 臨床講義室No. 1 参加者：新規採用研修医（全員） 講 師：薬剤部 楠目 絵理 3) 疑義照会事例（プレアボイド）紹介 I 開催日：2024年3月-4月 場 所：各病棟カンファレンスルーム 参加者：各診療科医師・看護師 講 師：各病棟担当薬剤師 4) 疑義照会事例（プレアボイド）紹介 II 開催日：2024年7月-8月 場 所：各病棟カンファレンスルーム 参加者：各診療科医師・看護師 講 師：各病棟担当薬剤師 5) 疑義照会事例（プレアボイド）紹介 III 開催日：2024年10月-11月 場 所：各病棟カンファレンスルーム 参加者：各診療科医師・看護師 講 師：各病棟担当薬剤師 6) 疑義照会事例（プレアボイド）紹介 IV 開催日：2025年1月-2月 場 所：各病棟カンファレンスルーム 参加者：各診療科医師・看護師 講 師：各病棟担当薬剤師 7) 2024年度医薬品安全管理・NST委員会合同研修会 「明日からの業務に活かす簡易懸濁法」 開催日：2024年5月14日 場 所：東館3階 会議室1・2 参加者：看護師・薬剤師・栄養士 講 師：薬剤部 奈良 歩美 8) 2024年度医薬品安全管理・NST委員会合同研修会 「簡易懸濁法をより深く学ぼう！～実践編～」 開催日：2024年11月12日 場 所：東館3階 会議室1 参加者：看護師・薬剤師 講 師：薬剤部 藤野 永莉子 9) 2024年度医薬品安全管理研修会 「抗がん薬の安全対策について」	

開催日：2025年3月13日
場所：東館3階 会議室2
講師：看護部 高橋 かおる
薬剤部 池上 太一

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：
医薬品安全管理責任者は年に2回(6ヶ月に1回)手順書に基づく業務の実施状況を確認。
また、職員間の定期的な確認の報告に対し必要に応じて改善を指示し、改善の実施を確認する。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：

未承認薬：15件承認

- ・ Menkes病に対するヒスチジン銅注の皮下投与(申請：小児科)
- ・ 悪性黒色腫、メルケル細胞癌、乳房外Paget病、直径2cmを超える有棘細胞癌に対する色素法によるセンチネルリンパ節生検実施時の院内製剤「パテントブルー」の使用(申請：皮膚科)
- ・ 円形脱毛症に対するSADBE(局所免疫療法)の使用(申請：皮膚科)
- ・ 神経ブロックを使用する際に用いる院内製剤「6.5%フェノール注射液」の使用(申請：麻酔科)
- ・ 神経ブロックを使用する際に用いる院内製剤「15%フェノールグリセリン注射液」の使用(申請：麻酔科)
- ・ 神経障害性疼痛に対する院内製剤「10%リドカインクリーム」の使用(申請：麻酔科)
- ・ セレン欠乏症に対する院内製剤「セレン内服液」の使用
- ・ 悪性黒色腫、乳房外Paget病に対する色素法によるセンチネルリンパ節生検実施時の院内製剤「2.5%パテントブルー注射液」の使用(申請：形成外科・美容外科)
- ・ 皮膚表面の色素沈着に対する院内製剤「5%ハイドロキノン」「10%ハイドロキノン」の使用(申請：形成外科・美容外科)
- ・ 先天性代謝異常症における高アンモニア血症に対する院内製剤「12.5%安息香酸ナトリウム注射液」および「安息香酸ナトリウム(内服薬)」の使用(申請：小児科)
- ・ 慢性上咽頭炎に対する上咽頭擦過療法施行時の院内製剤「2%塩酸亜鉛液(クロルチンク)」の使用(申請：耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
- ・ 鼓膜切開や外耳道生検等施行時の院内製剤「鼓膜麻酔液」の使用(申請：耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
- ・ 慢性感染性耳疾患に対する院内製剤「ネオブロー氏液」の使用(申請：耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
- ・ 皮膚悪性腫瘍における腫瘍増大抑制又は出血コントロールなどに対する院内製剤「Mohs(モーズ)軟膏」の使用(申請：皮膚科)
- ・ 原発性局所多汗症に対する院内製剤「20%塩化アルミニウム液(W-Alm)」の使用(申請：皮膚科)

医薬品の適応外使用：19件承認

- ・ 人工膝関節置換術におけるトラネキサム酸注射液の関節内注射(申請：整形外科)
- ・ 重症妊娠悪阻に対するオランザピンの投与(申請：産科)
- ・ 難治性僧帽弁輪峡部心房粗動に対するMarshall静脈への無水エタノールの注入(申請：循環器内科)
- ・ 注射用カリウム製剤の適応外使用に関する条件変更(「『持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整』の特定行為研修を修了した特定看護師」の追加)(申請：診療部)
- ・ C-NORSEに対するトシリズマブ投与(申請：脳神経内科)
- ・ 難治頻回部分発作重積型急性脳炎(AEREPS)/C-NORSEに対するトシリズマブ投与(申請：小児科)
- ・ 集中治療における対外循環に際して出血リスクが高いと判断される患者に対するクエン酸ナトリウム液による血液抗凝固療法(申請：救命救急・災害医療センター)

- ・内視鏡検査（食道癌、扁平上皮癌の判定）における院内製剤「0.75%ヨウ素ヨウ化カリウム液（ルゴール液）」の使用（申請：消化器内科）
- ・免疫チェックポイント阻害薬関連心筋炎に対するトシリズマブの使用（申請：がん薬物療法管理指導委員会）
- ・免疫チェックポイント阻害薬による有害事象（肺障害、肝障害、心筋炎）に対するミコフエノール酸モフェチルの使用（申請：がん薬物療法管理指導委員会）
- ・当院で以前より使用されているクラスⅡに該当する院内製剤（全19製剤）（申請：薬事委員会、院内特殊製剤検討委員会）
- ・蛋白漏出性胃腸症に対するタンパク漏出シンチ検査へのプールシンチ注（放射性医薬品）の使用（申請：小児科）
- ・治療不応の神経膠腫に対する抗癌剤治療におけるビンブラスチンの使用（Weekly vinblastine）（申請：脳神経外科）
- ・PRP（Platelet-Rich Plasma：多血小板血漿）療法における血液抗凝固目的でのクエン酸ナトリウム注の使用（申請：形成外科・美容外科）
- ・難治性精巣腫瘍に対するエトポシド（経口）の使用（申請：泌尿器科）
- ・レミフェンタニルの分娩時鎮痛での使用（申請：麻酔科）
- ・抗NMDA受容体脳炎に対するリツキシマブの使用（脳神経内科）
- ・チアノーゼを伴う複雑先天性心疾患患者に対する非心臓手術の周術期管理における重篤な肺高血圧症クライシスが生じた際の一酸化窒素（NO療法）の使用（申請：麻酔科）
- ・難治性の小児炎症性腸疾患（VEO-IBD）に対するウスチキヌマブの使用（申請：小児科）

- ・その他の改善のための方策の主な内容：
未承認新規医薬品等の使用に関し、医薬品安全管理責任者が使用状況を把握するための体系的な仕組みを構築し、2017年1月より運用している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 370 回
- 研修の主な内容： ① 新規採用医療機器の導入時研修 ② 特定機能病院における定期的研修 1) 医療法第6条の12の規定による研修会 2024年5月 (医療安全、感染対策、医療機器) 2) 医療法第6条の12の規定による研修会 2024年12月 (医療安全、感染対策、医療機器、薬剤投与、診療情報管理室) 3) 新規採用者への研修 ＜対象機器＞ ・生体情報モニタ ・輸液ポンプ/シリンジポンプ ・補助循環装置/人工心肺装置 ・人工呼吸器 ・除細動装置 ・血液浄化装置 ・閉鎖型保育器 ・高エネルギー放射線発生装置 ・診療用放射線照射装置 ・その他	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定 (有・無) - 機器ごとの保守点検の主な内容： ① 定期点検（外観点検、機能点検、作動点検、電気的安全性点検）：機器全般 ② 終了時点検（外観点検、作動点検）：機器全般 ③ 故障時点検（外観点検、機能点検、作動点検）：機器全般 ④ 安全ラウンド点検（作動点検、使用方法確認）：生命維持管理装置、生体情報モニタなど	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) - 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ① クライオバルーンを用いた肺静脈以外の部位への追加治療について ② 手術用着脱式L字フック型電気メスの使用について ③ CLAP法施行時に使用する注射筒輸液ポンプ等の適応外使用、CLAP法施行時に使用するポンプ用経腸栄養延長チューブ等の適応外使用について ④ GrossA食道閉鎖症に対する術中下部食道盲端検索における「タイムガイド」の適応外使用について ⑤ チアノーゼを伴う複雑先天性心疾患患者に対する非心臓手術の周術期管理における重篤な肺高血圧クライシスが生じた際の一酸化窒素（NO療法）の適応外使用について ⑥ IMPELLA挿入下でのMitraClipの適応外使用について - その他の改善のための方策の主な内容： ① リスクマネジメント委員会での報告（医療機器安全性情報の徹底、院内院外インシデントの報告・検討） ② 院内広報誌（リスクマネジメントニュースなど）での広報（医療機器安全性情報等） ③ インシデントに基づいた研修会の開催	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
・責任者の資格(医師・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 副院長(医療安全担当)が医療安全管理責任者の職務を担い、医療安全管理部門(医療安全推進室)、医療安全管理委員会(リスクマネジメント委員会)、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)(7名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ・薬剤部内には、メーカーより提供される添付文書改訂情報をその都度配布するとともに、週1回開催される「薬剤部管理者会議」等を通じて情報を周知徹底。 薬剤師は改訂内容に則り処方監査および調剤を行う。 ・特に重要と考えられる改訂内容については、院内全職員に回覧される「リスクマネジメントニュース」で周知するとともに、薬事委員会(隔月開催)でも報告。 ・2022年4月より医薬品情報一元管理システム「JUS-D.I.」を電子カルテに導入。 医薬品集を電子化するとともに、添付文書やインタビューフォーム、添付文書改訂情報などをすべての院内HIS端末より閲覧することが可能となった。 2) イエローレター・ブルーレター発出時 ・イエローレターやブルーレターが発出された場合は、その時点で当該医薬品を使用している医師をリストアップし、直接情報提供を行う。 ・全医師に対して文書を配布するとともに、各病棟の医師・看護師に対しては病棟薬剤師が直接配布・説明を行う。 また、すべての外来診察室内にも掲示を行う。 ・当該医薬品の処方時には、警告内容などが自動的に表示される仕組みとしている。 ・イエローレターについては、医療安全情報として全職員に回覧するとともに、閲覧の有無についても確認を行う。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 薬剤師は院内の全処方に対して、処方監査を実施している。 その際、添付文書から外れた使用目的や用法・用量が確認された場合は疑義照会を行っている。 疑義照会を行った際、適応外ではあるがそのまま処方したいとの回答があった場合は、「新規医療・医薬品等評価室」への適応外使用申請を依頼する。 ・担当者の指名の有無 (有)・無) ・担当者の所属・職種： 1) 医薬品安全使用に係る業務：(所属：薬剤部医薬品情報室、職種：薬剤師) 2) 未承認等の医薬品の使用に係る業務：(所属：新規医療・医薬品等評価室、職種：薬剤師)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (☒ 有 ・ 無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 : ○遵守状況の確認事項 ・説明に関する診療録の記載状況（記載頻度、同席者の有無等） ・説明同意文書の説明内容ならびに使用状況 ○主な指導の内容 ・説明と同意の実施方法（説明内容、文書による同意、医療者同席、代諾、緊急時等） ・説明に関する診療録の記載方法 ・説明同意文書の使用方法

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有 ・ 無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 : ○記載内容の確認事項 ・必要記録の量的点検 ・抽出的な質的監査 ・記載の誤り（病名、手技、部位、日付等の誤り、誤変換等） ・有害事象発生疑いの記載 ○指導等の主な内容 ・記載の漏れや不備 ・記載方法（記載者、記載場所、追記修正等）	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有 ・ 無
・所属職員：専従（ 9 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 11 ）名 - うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 7 ）名 - うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 2 ）名	

うち看護師：専従（４）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち事務職員：専従（３）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち臨床工学技士：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（１）名

うち診療放射線技師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（１）名

（注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

リスクマネジメント委員会の運営に関する業務
医療事故防止のための事例情報収集・分析・対策立案・フィードバックに関する業務
医療安全のための職員研修に関する業務
医療安全管理に関するマニュアル・ハンドブック等の整備に関する業務
患者相談窓口担当者との支援、連携に関する業務
医療事故発生時や事故後の対応支援及び指導に関する業務
医療訴訟、和解等に関する業務
医療安全管理の適正な実施における疑義による公益通報への対応業務
医療安全監査委員会に関する業務
全死亡例及び医療事故の報告に関する業務
医療安全に資する診療内容及び医療安全の認識のモニタリング業務
他の特定機能病院との相互立入に関する業務
他

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

ラウンド（院内ラウンド）での職員へのヒアリング

インシデント報告（あいれぼ）の報告内容の確認

診療情報管理士による診療録の内容確認

各種テンプレート（中心静脈カテーテル、深部静脈血栓）の入力情報の確認

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（７件）、及び許可件数（６件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）

・活動の主な内容：

高難度新規医療技術に関する情報収集

高難度新規医療技術提供に関する院内実施体制の確認

高難度新規医療技術実施申請への対応

高難度新規医療技術評価委員会の運営

高難度新規医療技術の実施状況の確認

高難度新規医療技術に係わる規程の改正 他

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（38件）、及び許可件数（38件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：
2024年度は未承認新規医薬品等評価委員会を11回開催し、適応外使用（医薬品）19件、適応外使用（医療機器・材料）3件、未承認薬（院内製剤を含む）15件、その他1件の審議を行った。未承認の医療機器・材料の申請は0件であった。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 1,354 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 330 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
毎月、医療安全推進室より、死亡症例の詳細（医療への起因性、予期の有無）について、報告を行っている。また、RST・RRT（呼吸療法サポートチーム・ラピッドレスポンスチーム）室からも、死亡症例に関する報告がされている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：東海大学医学部付属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：東海大学医学部付属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
技術的助言なし

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

現場で初期対応後、患者相談窓口に引継がれ、患者相談窓口と医療安全管理部門が協働して適切に対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

各種の医療安全研修会

（チーム STEPPS、BLS スキルアップセミナー、ICLS コース、医療安全セミナー）

新規採用者研修

（研修医・コメディカルのオリエンテーション時）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

特定機能病院管理者研修を受講

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2023年3月に「病院機能評価（一般病院 3rdG:Ver.2.0）」を受診したが、条件付き認定となり、2024年6月に書類等による確認審査（書面）を受審した。確認審査の審査結果が、2024年9月6日付であり、条件付き認定は解除された。なお、認定期間は2023年4月1日～2028年3月31日の5年間となる。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院ホームページへ掲載する。

・評価を踏まえ講じた措置

改善要望事項に該当する項目はない。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準 - 基準の主な内容 高度な医療安全の確保に関する法的責務を負っており、医療安全管理について十分な知見並びに病院運営に関し次の資質・能力を有し、リーダーシップを発揮できる者とする。 (1) 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有している者。 具体的には、医療安全管理業務の経験や、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有している者 (2) 組織管理能力等、病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有している者。 具体的には、大学病院内外での組織管理経験を有している者 - 基準に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) - 公表の方法 病院のホームページへ掲載
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				☒ 有 ・ 無
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (☒ 有 ・ 無) - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) - 公表の方法 病院のホームページへ掲載				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係 (☒ 有 ・ 無)
小林 弘祐	北里研究所 理事長	○	学校法人北里研究所 病院長等選任規程第4条第2項第1号に基づく理事長として、学校法人の総括者及び特定機能病院の開設者であるため。	☒ 有 ・ 無
島袋 香子	北里大学 学長		学校法人北里研究所 病院長等選任規程第4条第2項第2号に基づく学長として、学校法人の管理運営に関する見識を有するため。	☒ 有 ・ 無
江川 徹	北里研究所 常任理事		学校法人北里研究所 病院長等選任規程第4条第2項第3号に基づく常任理事として、総務に関する見識を有するため。	☒ 有 ・ 無

川瀬 恵史	北里研究所 常任理事		学校法人北里研究所 病院長等選 任規程第4条第2項第3号に基 づく常任理事として、学校法人の 総務に関する見識を有するため、 人事に関する見識を有するため。	有・無
対馬 康平	北里研究所 常任理事		学校法人北里研究所 病院長等選 任規程第4条第2項第3号に基 づく常任理事として、財務に関す る見識を有するため。	有・無
原田 毅	北里研究所 常任理事		学校法人北里研究所 病院長等選 任規程第4条第2項第3号に基 づく常任理事として、管財及び事 務統括に関する見識を有するた め。	有・無
谷下 一夫	北里研究所 常任理事		学校法人北里研究所 病院長等選 任規程第4条第2項第3号に基 づく常任理事として、研究に関す る見識を有するため。	有・無
瀬尾 昌雅	北里研究所 常任理事		学校法人北里研究所 病院長等選 任規程第4条第2項第3号に基 づく常任理事として、ICTに関す る見識を有するため。	有・無
浅利 靖	北里大学 医学部長		学校法人北里研究所 病院長等選 任規程第4条第4号に基づく医 学部長として、医学教育・研究・ 医療に関する見識を有するため。	有・無
賛 正基	社会医療法人 ジャパンメディカ ルアライアンス 理事長		学校法人北里研究所 病院長等選 任規程第4条第2項第5号に基 づく外部有識者として選定。 現職の理事長として、病院運営に 関する幅広い見識と実務経験を 有するため。	有・無
浅野 晃司	学校法人慈恵大学 理事		学校法人北里研究所 病院長等選 任規程第4条第2項第5号に基 づく外部有識者として選定。 特定機能病院を有する学校法人 の理事としての見識と同附属病 院副院長としての実務経験を有 するため。	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有・無	
・合議体の主要な審議内容 (1) 管理及び運営に関する事項 (2) 規程等の制定及び改廃に関する事項 (3) 診療、教育及び研究に関する事項 (4) その他重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 (1) 部科長会・管理部会にて報告 (2) 院内サイトにて会議資料を公開 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒有・無 ） ・公表の方法 院内サイトにて公開 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有 ☒無 ）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
山岡 邦宏	○	医 師	病院長
隈元 雄介		医 師	副院長（診療担当）
草野 央		医 師	副院長（医療支援・渉外担当）
山下 拓		医 師	副院長（人事・労務環境担当）
鈴木 隆浩		医 師	副院長（危機管理・経営戦略・医療安全担当）
石倉 健司		医 師	副院長（教育・研究・倫理担当）
別府 千恵		看護師	副院長（患者支援・チーム医療・男女協働参画担当）・看護部長
平本 照雄		事務職	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（**有**・無）
- ・ 公表の方法
病院ホームページへ掲載
- ・ 規程の主な内容
地位、職務権限、選任、任期、代理、改廃等について定めている。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副院長（診療担当）は各部門を指揮監督する。別に定めた副院長（特命担当）は、あらかじめ与えられた担当職務を遂行する。
 - ・ 病院長不在又は事故あるときは、副院長（診療担当）がその職務を代理する。なお、副院長（診療担当）に事故あるときは、あらかじめ定めた順序により、副院長（特命担当）がその職務を代理する。
 - ・ 病院長補佐は、病院長の特命事項を分掌し、担当職務に関し必要な提案等を行い、病院長の佐としてその職務を遂行する。
 - ・ 経営戦略室は、病院長を補佐し、医療事業推進のための総合的戦略を立案する。また、その他病院長が必要と判断する業務を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 執行部は日本医療機能評価機構主催「特定機能病院管理者研修」、日本病院会主催「医療安全管理者要請講習会」を受講している。
 - ・ 各部門のミドルマネージャー（係長）クラスを対象に「ミドルマネージャー・リーダーシップ研修会（全2回・25名参加）」を開催した。
 - 【研修会の目的】
 - ・ ミドルマネージャーとしてリーダーシップを学び、組織へのコミットと自身の成長のための具体像を認識する。
 - ・ リーダーとしてのスキルを学び、部署内のマネジメントが出来るようになる。
 - ・ メンバーのエンパワーメントを学び、リーダーとして人事育成に寄与する。
 - ・ 医師を含む各部門の管理職を対象に「ストレスチェックの目的と活用法」研修会を開催した。
 - 【研修会の目的】
 - 組織の健全化を目指したマネジメントにおいて、毎年実施しているストレートチェックの活用が有効とされており、受験率を上げ、その結果を活用し部署内の現状分析から職場の課題解決につなげる。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					有・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 1) 医療安全管理業務が適切に実施されているか、医療安全に係る取り組み状況を確認する。 2) 医療安全管理業務が適切に実施されていない場合又は、適切に実施されない恐れがある場合などは、必要に応じて是正措置を講じるよう助言する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法：法人ホームページにて公表					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山口 育子	認定 NPO 法人さ さえあい医療 人権センター COML 理事長	○	医療現場により良 いコミュニケーションを築く豊富な 活動経験	有・無	医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者
矢野 真	武蔵野赤十字病 院相談役 日本赤十字社 総合福祉センタ ー非常勤医師		医療安全の専門家 としての経験	有・無	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者
林 泰広	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 袋井市立 聖隷 袋井市民病院 院長		病院管理者として の経験、並びに医 療安全業務の経験	有・無	
亀森 康子	自治医科大学附 属さいたま医療 センター 医療 安全・渉外対策 部 副部長		大学病院等の医療 機関における医療 安全業務の経験	有・無	
海野 宏行	神奈川県弁護士 会所属 みなと綜合法律 事務所		弁護士としての経 験	有・無	法律に関する識 見を有する者

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
法人本部監査室にて年1回、病院関連法規に適合しているか監査し、監査終了後、
理事長に監査の結果を報告する。
- ・ 専門部署の設置の有無（☒有・無）
- ・ 内部規程の整備の有無（☒有・無）
- ・ 内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・ 公表の方法
法人のホームページへ掲載

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 ① 定例理事会・臨時理事会 学校法人北里研究所の全ての理事で組織定する。 理事会は、この法人の業務を決し、理事の職務の施行を監督する。 理事会の決議は、理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。 理事会において審議すべき重要議案は、原則として常任理事会の議を経て審議する。 ② 常任理事会 副理事長、常任理事、学長及び病院群運営協議会議長相互の業務上の連絡・調整を図るとともに、理事会の運営を円滑にするため、理事長のもとに常任理事会を置く。 常任理事会は、原則として毎週1回以上開催するほか、必要に応じて開催する。 ・ 会議体の実施状況（ ①年 18 回、②年 44 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（ ①年 18 回、②年 44 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 法人ホームページへ掲載			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒有・無） ・ 通報件数（年 19 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（☒有・無） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒有・無） ・ 周知の方法 職員にカードを配付